

NPO	164	樋瓜町自治会
-----	-----	--------

私は桂川の右岸に住んでいます。

この地域は25年前に桂川の拡張工事の話が始まり1期、2期、3期に工事が進んでいて、この工事が遅々として進んでいません。

今になって、2期工事が今年より始まった処で遅々として進んでいません。

地域住民は当初から工事には反対せずに賛同して参っています。今では不安といらだちを抱へた毎日です。どうか事情はあっても早急に工事を進めて頂きたいとお願い致します。

次に樋瓜町の第3期工事については、移転民家が22戸あり永間移転先の確保の要望と、新しい街造りに先だって土地の確保をして頂ける様強く要望して参りましたが、なかなか実現出来ないのが実情でございます。

どうか、地元住民が安心して事業に協力出来ます様格段の御配慮をお願い申し上げます。

NPO	200	土道を愛する会
-----	-----	---------

住民に地域の環境を問うた土道保存の賛否

まず、「土道を愛する会」の活動の経過を述べます。昭和58年、尼崎市では、猪名川、藻川で全周10キロメートルほどとなる堤防上の道をサイクリング道路として整備する計画がとおり、舗装が上流から始まりました。しかし、この道路は高速道路や鉄道とぶつかり、もともと自転車一周することは困難であり、その整備もされないまま舗装だけが先行するものでした。舗装が進むにつれ、住民から「バイク禁止は建前だけになり、暴走族が走り回ることになるのではないか。」「交通量が増え、事故の増加や騒音に悩まされるのではないか。」という声が上がりはじめました。私が陳情文を書き、署名運動をはじめました。3日間で5000名の署名が集まりました。驚いたことに署名に賛同したのは川沿いの住民ばかりではなく、町全体の人たちでした。陳情文には「私たちが川の堤防を散歩道として親しむ理由は、美しい川の流れ、その流れに背びれを光らせて泳ぐ魚の群れ、そしてその魚を求めて群れる水鳥や釣り人ののどかな姿、河川敷で群れて遊ぶ子どもたち、土手の草むらで鳴くキリギリスやコオロギの声、その虫を求めて遊ぶ子どもたち、そして、アスファルトに慣らされた足には、なつかしい土の感触…これを求めるからではないでしょうか。道路をアスファルトで舗装しますと土が乾燥し、その上道路の両側の土手は分断されますので、虫は激減いたします。自然の少ない尼崎にとって、川は大事な自然です。私たちにしましては、この堤防は現状のままにとどめてほしいのです。しかし尼崎市民全体のために開放されるのに必要ならば、この自転車・歩行者専用道路はスピードを楽しむ道路ではなく、老人や幼児も安全に、そしてこの道路に集まるすべての人々が心やすらぐ所であってほしいのです。」と、猪名川自然林保存運動の経験から、日ごろ考えている思いを盛り込んだのですが、それが、町全体を巻き込む環境論争に発展したのです。この陳情が市議会で採択され、反対が強かった地域の3.4キロメートルが、土のまま保存されることになりました。「全国で初めてのアスファルトストップ」と新聞で報道されました。

しかし、その後もたびたび「土ぼこりがひどいので、舗装してほしい。」と、運動後に移り住んできた住民から苦情が繰り返され、平成10年、土道の舗装を求める署名運動が起こりました。こちらも、15年前土道保存の運動をしたメンバーを中心に「土道を愛する会」を結成、直ちに土道保存を求める署名運動を開始しました。再び、堤防上の道は土道保存と決定しました。その後3年の間に、藻川堤防の土道はロコミで広まり、犬の散歩やウォーキングのために利用する人が、利用の過半数を占めるようになりました。病院からリハビリのために歩くよう勧められたり、尼崎の離れた地域からバスで、ウォーキングのためにわざわざ来る人もあります。土道は、ウォーキングロードとして、すっかり地域に定着しました。

今後日本は、超高齢化社会になります。堤防上の道に限らず、道路事情は大きく変わります。新幹線や高速道路の整備より急がれるのは、一般の道路ではないでしょうか。老人が安全に歩くためには、歩行者と自転車は分けねばなりません。歩道は、電動車椅子が通れる幅が必要です。車が通れない道を増やしたり、膝や腰への衝撃を考えれば、舗装をやめ土道を増やすことも検討されるべきです。堤防上の道は、膝や腰の弱った老人には、貴重なリハビリ道路になるでしょう。

「堤防上の道を舗装しないと洪水が起こりやすい。それでもいいのか？」と問われれば、洪水は、やはり困ります。けれども、50年に一度の洪水を防ぐためにどれだけの税金が必要か、また環境面でどれだけの損失があるのか、それらを問えば、答えは変わってくるのではないのでしょうか？土道保存のための陳情文が地域の環境問題に発展したように、堤防や河川敷がどうあるべきかは、今後どんな社会が訪れるのかを考慮して考えねばなりません。藻川堤防の土道の事例が、何かお役に立てばと思います。

河川利用	045	(社)撰津青年会議所
------	-----	------------

淀川水系に対する意見

この度、(社)撰津青年会議所におきまして、「撰津市淀川親水公園計画」と題した提言書を作成致しました。私たち(社)撰津青年会議所は、常に地域の発展を目指し、社会に貢献することを目的に活動を続けています。その中で「まちづくり」と言うテーマに基づき、まちの活性化に貢献したいという思いから撰津市における「名所づくり」を推進していきたいと考えております。撰津市において「名所づくり」を考えた場合、他市に紹介できる場所として、淀川の一津屋地区に着目しました。ここには、全国でも貴重な河川の水面利用地域があり、管理運営としてボランティア活動が展開されております。また、全国でも貴重な河川の水面利用地域として、親水公園と銘打ち、新たな「名所」として残していきたいと考えております。それには現在までの活動を深く理解した上で、この地域を「名所」として残していく為に必要な整備と、管理体制も含めた計画が必要と考え、提言書としてまとめさせて頂きました。この度提出させて頂きたく意見は、A4判1ページと限定されておりますので、提言所の一部を提出させていただきます。また、本書(提言書)をご入用の場合は事務局のほうまでお問い合わせ頂きますようお願い申し上げます。

1. 思想の提言:我々(社)撰津青年会議所は、淀川の水面利用状況に関して、過去からの経緯、現在の状況、今後の問題点を調査した結果、次の結論に至った。

- (1) **水面利用の重要性:**動力船、非動力船等のレクリエーションによる水面利用者は現実として相当数おり、さらに海外の状況、国内におけるアウトドア傾向の浸透化をみると増加することも予想され、淀川水系、特に撰津一津屋地区が水面利用者にとってますます重要となる。
- (2) **撰津市の名所づくり:**地方自治体として魅力あるまちづくりを考える際、このように財政的に厳しい時であり、何かを新たに作り出すのではなく、日本国内で唯一、一級河川における水上オートバイの走行が行え、日本トップの競技者が練習を行い、多数の全日本チャンピオンを輩出している場所が撰津市にあるということに着目し、これを活かした「まちづくり」を考えるべきである。撰津市にある「日本唯一の水上ゲレンデ」をより推進し、これらに共感する若者から世代の輪を広げて、撰津市の象徴、名所とするべきである。
- (3) **積極的管理の必要性:**動力船の運航に関し、騒音、水質汚濁等の危惧はあるが、利用地域を限定した上で積極的に管理し、利用ルールを徹底することで解決を図るべきである。反対に利用を禁止すれば、利用者は分散し根本的な解決にならないばかりか、むしろ問題が拡散する恐れがある。
- (4) **行政のインフラづくり:**水面利用者を考慮したインフラ整備がなされていないため、現状では自然の地形を利用した水面利用となるので、若い世代による水上オートバイやウィンドサーフィンといった限定された利用に留まっている。このため、世代間の交流が図れるよう一般の市民が気軽にやって来て、釣り船、モーターボート、舟運等が利用できるインフラの整備を整備計画に加えて頂きたい。また、水上オートバイ等の動力船利用者に対し利用料を徴収するなど、管理・運営を考慮したインフラ整備もすすめて頂きたい。
- (5) **行政主導の管理:**この地域の管理は現在民間ボランティア団体が行っているが、ルールを徹底する強制力や管理運営費用を徴収する権限がなく、今後管理を継続するには限界がある。水面利用者を考慮したインフラ整備とともに行政主導による水面利用者に対する管理団体の発足を望む。

2. 構想の提言:(社)青年会議所としての構想は、釣り船、モーターボート、水上オートバイ、釣り人、ウィンドサーフィン、など一津屋地区河川敷を利用するすべての水面利用者がレクリエーションとして安全かつ快適に楽しめる総合的な「水上公園」としての整備と、それに伴う新たな管理体制の構築を行うべきであると考え。その手法の一つとして我々の考えを次のようにまとめた。

① 整備項目

- ・動力船の上下架用斜路(スロープ)の整備
- ・低水敷の堤防整備
- ・駐車場の整備
- ・デイキャンプ場の整備

② 新たな管理体制

- ・行政管理下の管理団体を定め、占用許可を承認する。
- ・管理費用を低減させる為、有料施設にする。
- ・淀川の利用を一津屋に集約させるため、利用期間と時間の見直しを図る。

3. 将来に向けての提言:今後の(社)撰津青年会議所としての活動予定を、次のとおりとする。

- ・撰津市民の意見のとりまとめなどの、情報整理を行う。
- ・完成に至るまでの手法を調査し、とりまとめる。
- ・官民による新たな管理団体の設立など、具体的な作業内容の構築に対し出来るだけの協力をする。

河川利用	050	(社)宇治市観光協会
------	-----	------------

ご意見募集について

1、京都府立宇治公園中の島宇治川派川について

宇治川改修工事による派川への導水量が現在 1 秒3トンで水量が不足し、河床の不整備も相まって還流せずよどんでいる。また、生活廃水を流す管が派川に入り込み常時廃水が流れ、降雨時には多量の濁水や汚水が流れ込んで景観も損なわれ、窒素等の養分過多になっていると思われる。これらの事が原因なのか気候が暖かくなる春の観光シーズン頃から藻が異常繁殖し、更に悪臭やハエ等が発生し、観光地の中心部としては台無しになっているのが現状である。対策として派川への導水量を現在の倍位の 1 秒5・6トンにすれば解決すると思われるので、原因究明は勿論、早急な対応を望む。

2、宇治川兩岸の植栽について

昨今宇治川兩岸(河川・道路敷)の桜、松等の立ち枯れが目立ち観光地としての景観が損なわれつつあるが、管理者が不明確の為、植栽等の要望をどこにすれば良いのか判らないのが実情であるので、民間では難しい維持管理の責任者の明確化を望む。

3、宇治川の清掃について

釣人や観光客のマナーの問題もあるが、ゴミのポイ捨て、特に河川の中に目立ち、観光地としての景観が損なわれている。地元ではクリーン宇治運動の一環として府立宇治公園内の清掃を定期的に行っている。河川内のゴミの放置を見かねて時には漁業組合や観光協会が船を使って清掃することも有るが、河川内の清掃は困難であり、誰が河川清掃するのか責任者を明確にしていきたい。

4、川床の仮設について

夏の京都鴨川の川床は有名であるが、府立宇治公園中の島宇治川派川にも川床(既設1軒あり)が並べば風物が1つ増え、宇治市の観光の振興につながる。そのために新規に仮設の川床占用の許可について手続等河川管理者との相談を含め指導を仰ぎたい。

5、宇治までつなぐ水上交通について

大阪・京都(伏見)更に、数ヶ所浚渫が必要等、様々な課題が有ると思うが、宇治までつなぐ水上交通が復活実現すれば、観光振興に大いに期待できる。

河川利用	054	宇治川漁業協同組合
------	-----	-----------

宇治川を含む淀川流域にダムの新設は、絶対反対である。何故なら川が死滅してしまう。
 既設のダムについては、下流域の水温変化を最小限に食い止めるため選択取水ができるように改造すること。
 河川改修は治水優先にこだわらず、生態系に十分配慮し、瀬や淵を必ず存置するようにする。
 左右の護岸は、自然石の空積が望ましい。その上、凹凸をつけ魚の憩える場所を造ること。
 淀川水系河川への鮎の天然遡上を増やすため、淀川大堰の魚道の改修をすること。
 流域の砂防堰堤や取水堰で、魚道の整備不良の堰の改修や未設置の堰については、至急に設置すること。
 支流上流部の特に小河川での自浄作用を促すため、河床や護岸に変化をつけるよう工夫する。
 公共工事による濁水の流入を防ぐため、工事方法に最善を尽くすこと。(漁協にも相談すること)
 工法に最善の工夫をしても、多少でも河川汚濁による被害の発生が予測され、河中に工作物設置や河川環境の
 変化等、漁業に影響のある場合は事業主が漁業補償をすること。

都市下水の整備促進

流域住民に対し、河川環境保全について関心を高めるよう、行政側も積極的に折にふれてPRをする。
 数年前のことですが、水上バイクが宇治川へ上がってきて、釣り人や住民とのトラブルがあり、地域を挙げて対策を
 考え、最終的に警察署にお願いをして河川に大型の横断幕をして立ち入り禁止をした経過がある。今後のためにも
 法外な対策を強く望む。

河川利用	091	日本カヌー普及協会
------	-----	-----------

日本カヌー普及協会について

1936年、ベルリンオリンピックに役員として参加された京都大学名誉教授故高木公三郎先生は、次に開催される筈であった1940年の東京オリンピックでカヌーの競技を引き受けるにあたり、当時、まだわが国ではカヌーをしている人はいなかったこともあり詳細にメモを取り、写真を撮っておられました。終わり頃になって、「今日はカヌーの競技もボートの競技もない、今の間にベルリン郊外へ観光に行こう」と行かれた先の湖でお婆さんが孫をファルトボート(折畳みカヌー)に乗せ、魔法瓶とサンドイッチを持って一日中、陽なたぼっこをしているのをご覧になった先生は、それを、不思議な光景として脳裏に焼付け、更にそれと同じファルトボートを一隻買い求めて帰られました。

翌年から日中戦争が始まり、先生も南京の天文台の修復とそれに続いて上海にゼロ戦の修理工場を造られるなど活躍されました。

戦争が終わって引き上げられた先生は、しばらく考えられ「日本人は遊ぶことが下手でそのためにお付き合いも下手で、そのために西洋人とのお付き合いに失敗して、あんな戦争になってしまった。そうだ、これからはあのファルトボートを流行らせて、日本人にも遊ぶ習慣を付けよう」。(更に先生は日本人は中国人よりも遊ぶことが下手と言われました)

そして倉の中で埃を被っていたファルトボートを持出し奥さんと二人で川へ遊びに行かれました。しかしドイツ製は大きすぎて、重すぎて組立にも時間がかかり(全長5.2m重サ37kg組立時間30分)汽船も行き交う欧州大陸の川に合わせて造られたカヌーを、そのまま流域面積が狭くて流量も少なく、比較的急流の多いわが国の川へ持ち込まれたのでは、あっちへ引っ掛かりこっちへ引っ掛かり、その度に担いで深みへ戻すのは大変で、まして当時の日本人は体格も小さく、とても扱えませんでした。そして、さらに、今でも日帰り遊びが主体の我々日本人の遊び方、そこで先生は一回りいや二回りも小さくて軽い舟(全長3.6m重サ15kg組立時間15分)を工夫されました。そしてこの舟で学生や町の人たちを集めてカヌー遊びを教えられたのです。

当時20才の私も、その頃琵琶湖でヨットやモーターボートで遊んでいましたが先生に「一寸来ませんか」と誘われて瀬田の京都大学ボート部の浮棧橋の上で教えて戴いたのは1950年の初夏の頃でした。萌黄色の芽を吹く柳の下を漕いだことを覚えています。

日が傾きかける頃あみさだという料亭へ誘われて先のお話をお聞きしたのです。そこで私は先生に言いました。「先生、この舟、面白いけど、もっと急流へ行かな面白い。急流へ連れてって下さい。」そしてもう一つ、私は先生に言いました。「先生、この舟、面白いけど造りがお粗末や」先生の手作りの作品とも知らずに言ってしまったその言葉に先生は一寸むっとして言われました。「そんならあんたやっでご覧」しかし先生の舟よりいいのが出来るのに10年かかりました。そして丁度そのころ結成された日本ファルトボートクラブに私も入会させて戴きました。そして全国あちこちの川や海、たまには海外へも遊びに行き、シーズン中は毎週土・日、初心者対照のカヌースクールを開催するなど正しいカヌーの普及にも力を注ぎ、そのために初心者でも乗りやすい舟、ベテランが乗るとそのまま冒険や探険にも使える舟(これはどんな乗物にも共通の理論です)を作って50年、日本ファルトボートクラブは日本カヌー普及協会に発展し、会員数2000名にもなり、現在に至っています。

河川利用	091	日本カヌー普及協会
------	-----	-----------

私の木津川

初めて先生に連れられて笠置大橋から木津川を泉大橋まで下ったとき、飛沫を浴びながら笠置の瀬を下るのが楽しくてそれから何度も通いましたが、一寸慣れて油断したすきに転覆して放り出されました。初めての転覆で無我夢中でもがいているうちに急流は終わりやれやれと思ったその耳元に、川底の砂の流れるサラサラというかすかな音が聞こえてきました。それはまさに大自然のふところ深く潜り込んだという感動でした。

50年前の木津川

50年前、初めて訪れた笠置、そしてそこで見た木津川の第一印象は白い砂が溪谷の両側に果てしなく続き、その間を蕩々と流れる綺麗な水そして岸の上には枝ぶりのよい松が点々と続いて、まさに絵に書いた様な風景でした。

40年前から変わり始めた木津川

ダムの工事が始まると水が汚れました。私達は「ダムの工事が終わったら綺麗になる」と話し合いながら下りました。しかし工事が終わっても一向に綺麗になりません。「そらそうや、あんな大きな工事をしたんや、もう一寸待とう」とつぶやきながら下りました。

しかしそれ以来、綺麗にならずじまいです。そしてさらにダムや堰堤などが次々建設され砂が無くなったことによって川の相も変わってしまいました。

笠置でも約2m、近鉄鉄橋では3~4m、下津屋の流れ橋から御幸橋では5mも川床が下がってしまいました。昔は急流が終わるとカヌーの底が支える程の大量の砂が堆積していました。川の流れはその砂の中を伏流水となって流れ、堆積が終わるとまた砂の上へ出て流れます。そしてその間に砂の中に棲むバクテリアの作用で浄化されたのです。

そしてもう一つ見逃してならないのは里山が無くなったことです。昔といっても40年程前までのことです。当時は各家庭の竈や風呂の燃料は落葉を拾い、下草を刈り、下枝を払い、間引いた木を薪にしました。従って山は公園のように綺麗に整備され、赤松が育ち松茸が生えたのです。先日笠置山へ登ったとき、みんなに説明しようと「ここから川でみんながカヌーを漕いでいるのがよく見えます」と指差しましたが、樹々の繁みが邪魔になって何も見えません。少し前までは赤松の枝越しに木津川でカヌー遊びをしているのがよく見えた筈なのに、と考えるとこの笠置山も里山であったのです。それが、今では赤松は山の頂上付近に数本を残すのみで、あとはすべて広葉樹の樹海に変身しています。ここでも3000年前へ逆戻りしているのです。

そして40年前まではトイレの尿尿は勿論、竈や風呂の灰、更に炊事洗濯の水も排水池に沈澱させて上澄みだけを川へ流し、沈澱した泥も田畑へ入れて肥料にしました。しかし今、家庭の燃料はプロパンガスに変わってしまい、山の手入れは全くしないようになり、3000年昔に戻ったと言われていました。トイレは水洗になり、その排水は90ppm 炊事洗濯の水は垂れ流しという状態です。これに気づいた人達が合併浄化槽を工夫しました。

これを使用すると従来の単独浄化槽と炊事洗濯の排水を垂れ流しの場合に較べて約1/8の汚れになり、河川の自浄能力を考えると優に一桁以上綺麗になります。

しかし里山の手入れがなされず、その落葉や枯葉がそのまま流れ込むことなどを考え合わせると、40年前の川に戻すことは不可能です。何かまったく新しい方法を考えなければならない時が来ているのです。稲作文化が定着するまでに3000年程かかったと言いますから、この新しい文化も1000年2000年かかっても致し方ないかも知れません。然し私たちだけでなく、孫の代、曾孫の代、さらにその先までかかっても何としてもやり遂げなければならないことなのです。

木津川の四季

3月、春の雨で水嵩を増した流れは少し濁り、西の空は黄砂で曇り、川岸には猫柳が芽を吹いて、春が来たことを告げます。カヌーで川を下ると岩の陰に真っ白な雪柳が出迎えてくれます。春の風に揺れながら、「どお、私たち綺麗でしょ」と言っているように聞こえます。

4月、染井吉野が咲き始め絢爛豪華な幕が切って落とされ、四季の舞台が始まります。追い掛けて咲き始めるのは山桜、山の裾から中腹へそして頂上へと咲き終わるのは連休の頃になります。

川を下って行くと岩の上に亀が甲羅干しをしています。大きな親亀の上に子亀が乗り、その上に小さな孫亀が、ちょっと待てよ、あの孫亀、甲羅の色が茶色いよ。そーっとそばへ寄って行くと、5mくらいの所でニューッと首を出して逃げようとします。その鼻の先が尖っています。スッポンです。亀とスッポンは一緒に遊んでいるのです。川沿いの渓谷にはウグイスが囁き始めます。

5月、川添いの崖には可憐で真っ赤な岩ツツジ、そしてピンクの山ツツジ、そして薄紫の藤の花が少し地味な花をつけます。

川面にはカルガモの親子が一行になって泳いでいます。鶺鴒やシロサギそしてゴイサギが群れをなして遊んでいます。カヌーが近づくと一斉に飛び立つのでカヌーが下ってきたことがわかります。これらの鳥たちは一年中います。以前はカイツブリもいましたが最近は見かけません。下旬になると鮎釣りの解禁です。瀬の所に釣師が並びます。お互いに譲り合って遊びましょう。舟運が途絶えてしまった川ではカヌーが締め出されてしまった所もありますが、木津川では25年前、当時の漁業組合長の「かまへん。お互いに譲り合ってやったらええだけや」というお話に励まされて頑張ったことが夢のようです。

6月、新緑が何時の間にか深緑に変わる頃、カヌー遊びも本格的になります。転覆しても寒くないのはこの頃からです。でも間もなく梅雨が始まり、私達も一足先に梅雨の明けた沖縄などへ遊びに行きます。

7月、梅雨が明けるといよいよ川遊びのシーズンです。キャンプ道具を積み込んで川を下り、途中、どこからも見えない秘境を探してテントを張ります。ディーゼルのは聞こえるのですが不思議な秘境です。でも忘れ物のないように、一寸買物を、と思っても川を下ると引き返せず、大変なことになります。秘境のゆえに、不便を覚悟しなければなりません。やっぱりキャンプは橋のたもとが買出しにも便利ですね。

8月、いよいよ暑さも本番です。川沿いの渓谷のウグイスは山奥へ避暑に行ってしまう変わってミンミンゼミが喧しく囁き立てます。その声を聞くともう暑くてたまらず、わざと引繰り返って涼みます。

9月、喧しかったミンミンゼミも居なくなり、ウグイスが戻ってきます。川岸にススキが穂をつけ、萩の花が咲き始めます。中秋の明月の夜のキャンプは幻想的で、懐中電灯のあかりの中、水辺に緑色の小さな光が二つ光っています。思い切って手を突っ込んで捕まえます。バチバチッと跳ねるのはテナガエビです。

10月、カヌーを漕いでも汗をかかなくなり、ベテランに取って一番漕ぎやすい季節です。廻りの樹や草も色づき始め、華やかな季節がやって来ました。

11月、いよいよ紅葉が本格的になり、一年中で一番華やかな季節です。渡り鳥もぼつぼつやってきます。ガンが列を作って飛んで行くのも見られます。

12月、納会ではボタン鍋をつつきながらこの一年の思い出を話し合います。笠置の名物には鯉・鰻・鴨・猪がありますが、その中で、今でも笠置で捕れるのは猪だけです。鯉釣りもたまには釣れますが(ときには60センチの大物も)笠置の料亭で出すにはとても足りません。その鯉は、長野県の佐久から来るということです。「そんな遠い所から買わんでも琵琶湖の鯉ではあかんのですか」と聞くと「琵琶湖の鯉は笠置の料理に合わん」という返事でした。湖の鯉と川の鯉ではやっぱり違うのかな、と考えさせられた一コマでした。

1月、三が日はまだ寒くないのですが15日の初漕ぎになるといよいよ寒くなります。以前はカヌー広場には氷が張って、まさかりで割ろうとしてもなかなか割れず、ボートを引きずって川の真ん中へ歩いて行きます。中州の辺りまで行くとだんだん氷が薄くなってメリメリと音がし始めます。それでも歩いて行くとついにドスンと落ち、今度は引っ張り合い、はめ合いをして遊びます。ウエットスーツを着ていると全く寒くないのです。

それでも昔は手袋をしていても手がかじかんでパドルを落としたことがありましたが、最近暖かくて銭司まで下ってから手袋を忘れて来たことに気が付いたこともありました。

2月、雪の中を下ります。駒返しの上りまで下って行くと鴨の大群が一度に飛び立ってびっくりさせられたことがありました。野鳥の観察をしている人が言うのはびっくりしたのは鴨君たちの方で、2~3日は帰って来ないだろうということです。鴨君たちごめんねそして3月の声を聞くと、いよいよ川開き、カヌー広場の掃除をして蓬を摘んで川開きを待ちます。

河川利用	091	日本カヌー普及協会
------	-----	-----------

木津川への想い

歴史の回廊木津川

もう20年近く前になるかと思いますが、三川合流のイベントで、木津川は青連寺ダムの上からと名張から下り、八幡で琵琶湖からそして保津川からのグループと一緒に大阪の中ノ島まで下ったことがありました。このとき川の周辺はまさに歴史回廊であると思いました。これは私のような歴史に疎いものでさえ、思ったことです。ぜひともご専門の先生方のご指導を戴いて、出来れば定期的にあのような行事を行ない、小学生、中学生そして広く一般の方々にも体験学習して戴きたいと思います。

川は子供達の勉強の場

昔、笠置の子供達は小さいときから川で遊び、川から学んで育ちました。低学年の子供は支流の白砂川のよどみで、上級生は本流へ出る手前のよどみで、さらに大きい子供達は獅子岩の上から飛び込み、笠置大橋の瀬を泳いで下ったりしました。大人は一切干渉せずそれぞれ餓鬼大将が取り仕切り、叱ったり、教えたりグループで行動していたそうです。小学校にプールが出来て川は危ないから行ってはいけませんということになりましたが、永井町長は笠置の子で木津川で死んだ者は有史以来一人もおらんとおっしゃっていました。

子供達と川を下って行くと千両岩の所の川の中に太閤石があり、昔、太閤さんが大阪城を造るとき、岩を運ぶのに筏を組んで下に吊して運んだのですが、途中で置き忘れた岩だということです。水の中に吊すと排除した水の量だけ軽くなるというアルキメデスの原理を応用した賢い方法でした。私達も、大人が4リットルの空缶を抱いて泳ぎ、息を吸うと肩まで浮き、吐くと頭の上を残して沈む実験をしました。もっと色々面白い実験ができます。

私達が小学生の頃、戦争が始まり「科学する心」という標語が出来て、みんな頑張りましたが、IT革命も結構ですが、今こそこの標語が必要な時代ではないでしょうか。

富栄養化した河川

工場排水はこの流域には少なく、さらに最近では排水浄化施設が義務付けられたことにより薬品や廃液による汚染は少なくなりました。しかし家庭排水、浄化槽の排水、落葉や枯草が流れ込むことによってその腐敗した有機物が水質の汚染を引き起こします。更にこの有機物を肥料として河川敷に雑草がはびこり、その枯草が更に肥料となって雑草が増えます。そんな状況が昔の綺麗な砂と綺麗な水の木津川からは想像出来ないかけ離れた様相を呈しています。つまり、昔は里山や森林の手入れが、綺麗な川の母体となっていたのが理解できません。私達も何か一つ（河川敷の竹林手入れ）ご恩返しをしたいと思います。

化学物質の影響

そして今は合成洗剤などの化学物質が流れ込み、その影響をうけて貝や爬虫類のオスがメスに変わる現象が起きています。合成洗剤は簡単には分解されないで海まで流れ込みその影響は広くわが国の沿岸にまで及んでいると聞きます。さらに合成洗剤だけでなく、色々な化学物質の影響が心配されます。又田圃や畑にまく肥料も昔は尿尿が中心であとは落葉や枯草など堆肥でしたが、今では殆どが化学肥料なのです。そしてこの中には従来の有機肥料には微量に含まれていたミネラルや金属などが欠如しているのです。今この田圃や畑の作物だけを食べていると、味覚障害を引き起す例があると聞きます。40年前の生活に戻すことは不可能ですが、なんらかの方法で昔の肥料を取り入れ、これらの問題を解決し、さらに少しでも昔の山や川の面影を取り戻す手立てはないのでしょうか。

21世紀からの新しい文化のヒントはここにあるのではないかと思考するのです。私達の世代で破壊してしまったものを、すぐには戻せないかも知れませんが、2000年以上かかって構築された稲作文化に替わる新しい文化、それは孫たち曾孫たちの世代に引き継いで、どんなことがあっても完成させて行かなければなりません。

河川の改修について

私達がゲレンデとしている木津川の笠置大橋から泉大橋の付近では、大きな河川改修は行なわれていません。しかし全国の河川を広く見渡すとあちこちで大きな改修が行なわれています。鉄の矢板をずらりと打込むと環境破壊になることは勿論、子供達だけでなく、大人も近づくことが危険になり「川へ入ってはいけません」という立て札を立ててなければならなくなります。昔は、いや本来、川は人間と自然の接点であり、そこで遊ぶことによって人間も大自然の一員であることを自覚し、色々学んだのです。もうそろそろ原点に立ち戻って、鉄の矢板を取り去る工事を始めてはどうでしょうか。

ダムや堰堤に溜まった砂を下流へ

そのための提案、ダムや堰堤に溜まった大量の砂の一部を下流へ流すことにより、川床を元の高さに戻す。これによって、鉄の矢板や蛇籠が不必要になる所もあると思います。勿論侵食によって下がった岩盤は戻りません。その対策は別に考えなければなりません。

以上、河川担当者の中に「川を中から眺めたことがない人も居る」ということを意識し少しきつい言い方になったかも知れませんが、木津川で遊んで50年の私の意見です。

河川利用	111	兵庫県漁業協同組合連合会
------	-----	--------------

1. 琵琶湖に関して

- 1) 南湖沿岸の開発をこれ以上進めない。南湖の水質をこれ以上悪化(富栄養)させない。水質浄化作用のあるヨシ原を積極的に保護、維持、再生していく。
- 2) 北湖の水質を少なくとも現状維持に努める施策を立案し、実行していく。そのためには、琵琶湖に流れ込む河川の管理について、上流域まで含めて再検討する。
- 3) 琵琶湖の固有魚類等を絶滅させないために、今以上に外来魚種(ブルーギル、バス、カムルチー etc.)等の捕獲に努める。

2. 淀川に関して

- 1) 淀川中・下流域に点在している“ワンド”を優先的に保全し、(この行為自体が河川敷等の設計に影響を与える)ワンド特産の魚類(イタセンパラ等タナゴ類、アユモドキ etc.)生物の保護に努める。

3. 淀川が海に流れ込む、いわゆる淀川河口域周辺海域では、常時、淡水が海水の上に層積された形の所謂、「密度躍層」が観察され、栄養塩等が過負荷の状態である。とりわけ、大量に出水する雨期の6月～7月にかけては、その現象が顕著に観測される。栄養塩自体は生態系における第一次生産には必須であり、ひいては高次生産に結びつく重要な物質であることには変わりないが、大阪湾奥部では海流が緩やかで、川からの栄養塩が高濃度に滞留し易く、大阪湾全体からみれば湾奥部に偏在化していることに問題があると考えられる。また、湾奥部の栄養塩濃度の推移状況に関しても、当然のことながら季節変動が認められる。

淀川の河川管理の中には、南郷洗い堰の放流量等についても、当然、検討課題にのぼると思うが、淀川水系流域委員会におかれても、川の問題をただ川の流域問題だけで捉えるのではなく、もう少し視点を拡大し、川が流れ込む海をも含めた大きな生態系の中で川の問題を捉えていただきたい。川が、海と、海をなりわいとする漁業と密接に関連している視点で捉え直して欲しいと考えている。

河川利用	123	伊賀広域水道事業促進協議会
------	-----	---------------

《 伊賀地域の住民生活と産業基盤を支える木津川の恵み 》

一級河川淀川水系木津川源流に位置する三重県上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村並びに青山町は、人口約十万人、自然に恵まれた歴史と文化豊かな地域であります。

地域内には、木津川、柘植川及び服部川の三大河川が流れており、古来から氾濫を繰返しながらもその水の恵みを享受しながら、種々の産業文化の発展とともに、流域住民の生活を支えてきました。

当地域の水道施設は、3つの上水道と18の簡易水道が運営されており、木津川の表流水と地下水を水源としております。

しかしながら、近年の生活様式の多様化等により年々増加する水需要対策や安全できれいな飲料水を豊富に供給することが求められてきており、また将来の下水道基盤の整備に伴う水需要、水道未普及地域への給水、不安定な水源で運営している簡易水道の統合など、将来に増加が想定される水資源対策を積極的に進める必要がでてきました。

幸いにいたしまして三重県では、木津川上流の青山町で建設が進んでおります「川上ダム」を水源とする「三重県西部広域圏広域的水道整備計画」を平成10年に策定いただき、現在、伊賀地域に安定的な水道水を供給する「伊賀水道用水供給事業」が推進されております。

このように、伊賀地域の更なる発展と地域住民の暮らしに欠くことができない水資源の活用に国・県及び関係市町村が一体となり、現在その施策を協力を推進しているところです。

そのうえ伊賀地方では、現在市町村合併に係る任意合併協議会を組織し、住民説明会等の開催を行いながら地方行政の強化、一体化を図るべく取り組んでいるところでありますが、水資源の活用についても伊賀水道用水の供給を中心に一元化をめざしているところであり、その元であります「川上ダム」の早期完成がなくては、当地方の発展はありえないと考えています。

つきましては、淀川水系の治水効果が図られるとともに、流域内の水資源が新規に開発される川上ダムについて、皆様方のご理解、ご協力を賜り立派にその効果が発揮できる日が1日も早く訪れることを切望しています。

河川利用	124	京淀川漁業協同組合
------	-----	-----------

要望書

当組合の漁業権区域は、木津川に於いては上津屋橋(流れ橋)より下流三川 合流地点、宇治川は隠元橋より三川合流地点、桂川はJR鉄橋中央より同じく合流地点までです。

京都府下の漁業組合の中で大阪府に隣接する唯一の漁業組合です。毎年、京都府の指導のもとに各魚種の魚を放流していますが、成長する魚は少なく各河川とも汚濁度が年々悪化していることは確実です。環境は悪くなる一方です。加えて、行政の河川管理は劣悪で特に木津川に於いては、立木が大きく成長してあたかも荒原というべきで川の状態ではない。

我々漁業を営む者にとって生活がかかっているため、我々の苦境を脱するためには以下の条項を厳守されることによって環境が改善され我々の生活も若干は良くなると考えます。

記

1. 河川に流入する農業用水は、農薬、化学薬品を除去して放流することの指導
2. 宇治川については、大雨の時の対応ができていないようだ。浄化処理が不十分である。水量が多くなると生のまま放流されることがある。浄化処理をよくして、良質の水だけを放流して戴きたい。宇治川・木津川ともにそれを要求する。
3. 特に木津川は、昭和28年頃より建設省と京都府の認可を受けた業者によって八幡市橋本付近より上流は笠置町付近までの広範囲で有償にて川の砂を採取されていた。
河床低下の為、従前より木津川から取水して農業を営んできた八幡町の農業は困って、町内の各民主団体の代表約100人が建設省(現在の国土交通省)淀川工事事務所に出向き、交渉を行った結果、揚水ポンプを設置し、木津川の水を農地に引き入れ田植えをしたこともあった。川砂の採取はその後も続けられた為に粘土層まで深く掘り下げられてやっと採取は終わったという経過である。
砂の上では各種の種が飛来しても新芽はでない。が、粘土層は、樹木の芽さえ成長させることができる。今日では、この川はさながら雑木雑草が茂る荒原となっている。樹木の成長の年数を計測することで行政庁がどのくらい無責任に放置していたかがわかるであろう。この状態は、漁業を侵害し我々の生活を脅かすものである。直ちに十分な配慮の上、即急に河川らしき状態に復すべきである。何時までも放置されるなら、生活防衛上なんらかの法的処置を訴えざるを得ないところである。漁業権とは、基本的人権の中でも大切な生活権でこれを脅かす者とは、今後十分な取り組みをしていきたい。
4. 漁業権は、漁民生活を守ろうとするものであり、国民の趣味は、自由に考えられるものである。ただし、それによって他人の生活権を脅かしてはならない。

以上

河川利用	146	淀川舟運整備推進協議会
------	-----	-------------

淀川の舟運復活に向けての意見

1. 基本的視点

淀川の舟運は、古代から現在まで政治・経済・文化など多方面で近畿地方や日本の発展に寄与してきた。一方、沿川住民は生活の場として淀川と関わりを持っていたが、近年その関係は疎遠になっている。舟運の復活を通して歴史的文化的な背景を持つ淀川との関わりを深め、川からの視点を確保することが市民の流域意識や環境意識を醸成し、川に向けたまちづくりの推進や淀川への愛着につながり、淀川ならではの特有の沿川地域になることで近畿地方の活性化につながると考える。

2. 復活に向けての課題

①大阪市内の課題

現在の淀川は淀川大堰があるため、船舶は大阪湾から直接中流域や上流域に航行できない。また、淀川では阪神電鉄西大阪線淀川橋梁、旧淀川等大阪市内河川では淀屋橋など複数の橋の桁下空間が不十分なため一定規模以上の船舶が常時航行できない。そのため、淀川では船舶による海上と河川の一体的な航行ができない状況である。

②中流域、上流域での課題

淀川本川に整備されている船着場のうち芥川合流点より上流にすでに整備されている枚方船着場や大塚船着場はその前面の水深が十分確保されていないことから、大阪市内で航行している船舶は航行できない。また、三川合流部までは土砂のたい積も多く、船舶航行に必要な水深が確保されていない。

③船着場等の課題

大震災時の舟運活用を期待しており、船着場や河川敷緊急輸送路が耐震性に十分かどうかの懸念があり、また、船着場背後のヤードの確保や船着場までの道路(幅員、構造等)などが十分な状況ではない。

3. 期待する「淀川舟運像」

①活用が考えられる分野

平常時にあつては観光利用、水辺体験(環境学習、校外学習を含む)、物資の輸送(道路交通や環境への負荷の軽減)。また、大震災時等における物資やけが人等の緊急輸送など、新しい視点で大阪府域と京都府域をつなぐ広域的に活用できる可能性が高い。

②対象範囲

淀川河口・大阪都心部～伏見・宇治(淀川、宇治川)を中心に、大阪市内河川(旧淀川等)との連続性や大阪湾岸地域の舞洲、天保山、USJ、南港、神戸、関西国際空港などの海域との連続性を確保することで魅力が高まり、広域的、一体的な利用が可能になる。

4. 実現に向けての取組みや提案

イベント的な航行を積み重ね、定期便の就航を目指す。それまでに課題の抽出・克服と社会的なニーズの把握。

民間事業者による船着場の利用促進や毛馬閘門の通行時間帯の緩和。

船着場の増設や中上流部での船溜施設(河川港)の設置。

喫水の浅い船舶や造波の少ない新型船舶、クリーンエンジンの船舶などの開発の推進。

まちづくりと一体になった沿川での観光資源等の掘起し、創出。

緊急輸送時や事故発生時の関係機関の役割分担や連絡体制、予防的ルールづくりの推進

河川利用	163	朽木村漁業協同組合
------	-----	-----------

私と致しましては「水の恵み」を近頃の人々は、忘れがちではないかと思われま

当方と致しましては、山、川、水といった自然の大切さを子供・孫等、子孫に伝えていきたいと思

安曇川支流では、北川ダム建設で川床が荒らされ、水が濁り弱っております。

河川利用	188	(株)淀川ゴルフ倶楽部
------	-----	-------------

委員会に対しましての要望

意見を出す前に貴会に対し、切なる要望を申し上げます。まず今回の意見提出の通知が急すぎた点につき回答を要望致します。小生これを見ましたのは12月13日でしたが、速達は12月12日で出されて居りました。又帰社の際12月20日締めである事を知りました。いかなる理由かはわかりませんが公的機関の意見募集としてはせめて1ヶ月以上の余裕をとってすべきではないかと存じます。又その他の河川利用関係団体等は既に委員等に加わり、意見等をのべてきて居られますが、我々ゴルフ場関係者及びゴルファー等は一切知らされず、今回初めてこの会を知った次第です。本年4月準備会が出来た旨を役所より知らされて居りましたが、委員会が出来た事は知らされて居ませんでした。

小生も12月14日以来淀川筋6ゴルフ場の意見を調整致しましたが、急すぎて対応出来ない状況です。

連絡をくれたのだから存在を認めているものとして意見を出すべきだとの意見が当场以外にも1場あり、2場を中心に意見をより多くのゴルファーより提出して貰うつもりで居ります。今後発言の場が与えられるのであれば、徐々に6ゴルフ場共発言の場に加わりまた、多数のゴルファーの意見も提出される事と思われまます。

1.淀川河川ゴルフ場存在の必要性

(1)年間淀川6ゴルフ場の利用者は平成12年度 411,424 人でありました。この点は巾広く利用愛好者又河川でなければゴルフが出来ない人口が如何に多数であるか証明するものであります。

(2)年長者、ジュニア層、主婦等比較的近場でなければアクセス出来ない方々の利用が最近特に増加している点であります。これらは電車、市バス等の交通手段にて簡単に来場可能な点であります。

(3)ゴルフはスポーツであり健康増進に役立つレジャーである点です。ゴルフ程好き、嫌いが別れるスポーツはありませんがリラックスしてのプレーは人間の精神衛生面、及び適度な運動として年長者にも親しまれて居るゆえんでもあります。

(4)淀川の6ゴルフ場は全てパブリックゴルフ場であり全てのゴルファーに開かれている点です。メンバーコースも安くでプレー出来るようになって居り河川のゴルフ場は必要ないのではないかと意見で以前に見た事がありますが、これらはメンバー制の体質を知らない方の発言であります。

現在不況でメンバーの来場回数が減っている為の一時的コストダウンであり、状況が変わればビジターは安価でプレーが出来なくなる点は明白です。

(5)淀川河川ゴルフ場存在の正当性について

上記の如き理由ではありますが、何よりも現在に到る迄38年～52年間も営業され、維持され、存在しつづけて来た点であります。欧米にてはリバーサイドゴルフ場の存在は古くよりありました。又日本にては戦前より存在した点強く訴える次第であります。又淀川にては戦前淀川ゴルフ倶楽部の場所にて学士会ゴルフ倶楽部が存在していた事を参考に申し上げます。学士会ゴルフ倶楽部は第8連隊の演習場としてつぶされましたが、このような強権が再び起こされないよう祈る次第であります。

以上の点により河川ゴルフ場の必要性を強く主張するものであります。

河川利用	195	大津市上田上自治連合会 大戸川ダム対策協議会 大津市田上山砂防協会
------	-----	---

国直轄による大戸川の整備について

大戸川は、歴史的になりますが、1300年程前、国家の大きな流れの中で、平城京造営や東大寺の建立を図るため、信楽・田上地域に育ったみごとな杉・檜の美林を搬出するための河川として活用されてきました。

また、この伐採等により、周辺部の山々は、風化しやすい花崗岩混じりの砂質土が露出する状態となりました。

そんなこともあり、江戸時代に何回かの氾濫により、その都度、川沿いの集落まる毎、山間部へ移住が相次いだと伝え聞いています。

一方、この氾濫により肥沃な土壌を形成した田上地域は、素晴らしい農業環境を創設し、立派な田上米を生産出来るようになりました。

このように、大戸川は、地域住民にとって掛け替えのない恵みと大変な被害をもたらしてきました。

私は、このような歴史的背景に配慮して頂き、内務省が、全国にさきがけ明治11年、田上山を中心に砂防地区を指定し、今なお、鋭意、治山・治水に努力し、今また、国土交通省で大戸川ダムを建設し、下流域の治水に努力しようと工事を進められていると理解しています。

しかし、現在、このダムから瀬田川までは、滋賀県による整備となっています。

今一度、この河川が、歴史的には、国家的な影響を受けてきたことを考慮して頂き、先程も、記述しましたように、田上一帯の直轄砂防事業、大戸川ダムの直轄事業は、このことに配慮されたと理解し、感謝しますので、これらの事業の狭間になる大戸川整備についても、国土交通省直轄で整備されないことが画竜点睛を欠くことになるのではないのでしょうか。

格段のご配慮をお願いします。

大戸川ダムの早期整備について

国は、昭和46年、大戸川ダムが淀川中流域の治水に、専ら貢献するダムとして計画されました。

地元としては、江戸時代、集落まる毎移転した辛酸した話を聞いていることや最近でも、氾濫による被害をうけていることから、この計画に大いに感謝し、事業の推進を誓い努力しようと決心しました。

結果、昭和39年から、今なお、地域の代表として、ダム水没者55戸の並々ならぬ犠牲のもと新しい移住地での生活再建を進めてきました。

又、ダム本体用地の買収についても、地元協力を取り付け、ほぼ完了させてきました。

最近では、付け替え県道や工事用道路の整備についても、地元協力のもとで順調に進捗している状況であります。

このように、今日まで、地域として、些かも、ダム建設反対の声を上げず、全国でもこんな事例のない希有なダム建設であることを、記憶して頂きたい。

しかし、昨今、ダム不要論や公共事業の効率性等から、このダムも再検討される情勢になっています。

決して、公共事業は無駄という先入観で、この事業整備の迅速化を検討しないでください。

改めて記述しますが、地域では、もうすでに、大変な努力と犠牲を払った上での今日のダム建設事業であることを、充分認識して頂き、同時に当初目的である京阪神の防災上や今日的には安全・安心の確保の観点からも、この事業を止めることなく、遅らせることなく進めて頂きたい。

河川利用	199	尼崎造園事業協同組合
------	-----	------------

猪名川、藻川への想い

有史以来氾濫が繰り返された猪名川藻川の河川改修は、地域住民の切なる願いであったが、国土交通省の「利倉捷水路計画」として大改修工事が進められ、昭和44年に完成を見て、尼崎の流域住民は安心して日々を過ごすことができるようになった。また「猪名川の自然と文化を守る会」の熱心な取り組みにより、猪名川廃川敷に多くの自然が残され都市の大オアシスとなっていることは慶賀にたえない。しかしながら、住民の意識は時が過ぎるにつれ、河川改修の喜びが失われつつある。感謝のための記念日などを設け、防災への心構えなどの喚起も行って関心を高めていかなければならない。

河川堤防をはじめ河川敷は、尼崎は、最高度に利用されていることを喜ぶ次第であるが、環境改善のためビオトープなどを取り入れて虫や鳥の憩う場作りも必要であろう。従ってある程度雑草を残すなどの維持管理が望まれるとともに、野草、宿根草や低木などを植えて「花の咲く堤」づくりをする場も考えていくべきであろう。

また、現在藻川堤防が舗装を行わず、散歩道として市民に親しまれている。島の内(猪名川、藻川に囲まれた地域)全域の堤防が全行程を車が乗り入れず安心して歩いたり、ジョギングができるように、配慮した堤防作りが望まれる。

現在尼崎市では、猪名川自然林(猪名川廃川敷)周辺の地域を対象に尼崎市政80周年記念振興事業として「自然と文化の森整備構想」の策定が進み、尼崎市、市民、事業者が協働で構想を進めるグラウンドワークの実践が試みられている。猪名川、藻川堤防と河川敷についても、市民の憩いの場として、子どもたちの環境教育の場としての機能が求められている。

また、地元市議会議員や地元農家、市民らが、河川敷に植物を植える試みをはじめており、猪名川工事事務所との交渉の末、今年の春には、チューリップの花壇が市民の目を楽しませた。最近ほとんど堤防で見かけなくなった彼岸花なども植えていきたいと考えている。その他、河川の清掃活動など、いくつかの市民グループが河川にかかわる活動を続けている。このように、独自の活動が育っていることはよいことであるが、今後ネットワーク作りなどで、統一の認識を育てることも課題といえる。

尼崎市みどり課長、緑政部長として、長年尼崎市の緑化に取り組んできたが、公園、街路樹などでは限界があり、河川敷の緑化は生涯最後の課題と考えている。治水、利水の重要さを無視するものではないが、河川の環境を豊かにすることを望む市民の声も大きくなってきている当市の実情を知っていただきたい。

河川利用	213	西畦野水利組合
------	-----	---------

川への思いについて

いつもお世話様です。この度機会を頂きましたので上記の件につき申し上げます。

私は、猪名川上流の一庫大路次川よりの取水で農業をする者ですが、近年夏の渇水期には時として取水制限をしております。

河川管理者の方の呼びかけにより、一庫ダム下流の水利用者の代表が一堂に会して取り決めて実施しております。

しかし、こんな事があっていいのかなー、と思うことがあります。

それはゴルフ場の散水です、当西畦野地区にはその地域の水田と同じ位の面積の鳴尾ゴルフクラブのゴルフコースがあります。それが、多嘉橋の下で川の水を汲み上げて全コースにスプリンクラーで散水している様に思われます。

渇水期に、皆が水に困っている時に青々とした芝生でプレーしている(遊んでいる)のを見ると、これは間違っていると思います。

当方が見たところ、川の中の私有地の部分から汲み上げている様です。

いくら私有地でも、川の水を汲み上げているのに違いは無いと思います。見たところは全く川の中で、其処には川の水が流れているのですから。

又、近年、ゴルフ場の中に大きな池を造って、その水を散水していると言われていますが、それはまやかし半分と思います。

川から汲み上げる設備を廃棄されない以上は、川から汲み上げていると思います。

皆様はどの様に思われますか。

以上

河川利用	218-01	野間地区環境整備委員会
------	--------	-------------

水生動物等の保存保全について

木津川上流域の上野市新居地区内の三面コンクリート張り排水路において堆積土砂の排出作業が現在行われていますが、葦やがまの水生植物等を根こそぎ除去してしまい河川環境上好ましくないと思われます。

当地区は遊水地のほじょう整備が行われたところであり、堆積土砂により排水路が詰まったり排水路から排水が溢れたりすることがおよそ考えられない状況下にある土地ですので水生動植物の保護のためぜひ中止していただきたい。

河川利用	218-02	上野市体育協会
------	--------	---------

木津川流域河川堤防上ジョギングウォーキングコースについて

標記コースについては、上野市体育協会会長を発起人として関係21団体513名の署名をもって、上野市長、三重県知事、国土交通省木津川上流工事事務所長あて陳情いたしましたところ、国土交通省木津川上流工事事務所より工事費を捻出していただき、平成13年度工区の竣工となりました。

現在ウォーキングやジョギングが盛んですが、堤防敷地を市民に開放していただけるようになりますと、上野市の健康都市宣言の趣旨に沿うように一層私たちの健康増進に寄与してくれるようになります。

のみならず、堤防上からは伊賀盆地周辺の四季のうつりかわりや、河川敷地内の四季の風情も楽しめるようになると思われます。

今後の更なる工事の継続をお願いしますとともに、ネットワーク作りにご協力して下さるよう重ねてお願いいたします。

河川利用	219	淀川・木津川水防事務組合
------	-----	--------------

今、淀川水系での問題点と要望

水防事務組合に働く者として、今日の水害のない状況を嬉しく思っております。しかし、100年に1度、200年に1度発生するかもしれない集中豪雨を考えた時、宇治川・木津川が持ち堪えることが可能か、不安な状況である。

今日、宇治川の上流には、天ヶ瀬ダム、南郷洗堰、琵琶湖と比較的水量調節のでき得る状況である。

又、木津川においては、高山ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム等名張川上流にダムができて、水量調節に力を出して、下流に住む我々に恩恵を授けていると感謝しております。

しかし、木津川の堤防は砂で築かれているため、住民の不安は計りしれないものがあると、思われる。

こうした事をふまえて

1. 堤防の強化改修(スーパー堤防も視野に入れてほしい)
2. 流量の確保(川中に樹木が繁茂し、流れを阻害している事への、住民の不安は何時も抱えている。)(宇治川も同じ)
3. 川に親しみを持つと言う意味から、堤防から川の景色が見えるようにしてほしい。
4. 河川公園の整備
 - (1) 木津川(右岸)の堤内に私有地(畑、茶園)があり、これらを国有地にして、河川公園として、整備してほしい。
 - (2) 宇治川(左岸)の近鉄鉄橋より上流は、川幅が狭く公園は困難、しかし、近鉄鉄橋より下流は、川幅も広く河川公園は可能
5. ホームレス対策を考えてほしい。

実現方法

計画を樹立し、予算措置をし、一度には出来ないので、こつこつと少しずつ実施をしていく必要がある。

自治体	032	上野市土木部
-----	-----	--------

木津川上流域の事業推進を図るための意見

本市において直轄事業として上野遊水地事業を進めていただいております。私も事業推進に向け関係地区住民の方々にご理解、ご協力をお願いをしている立場でございます。

今回流域全体から意見募集し、今後の参考にして頂けるということでありますので応募させていただきます。

ご案内の通り木津川上流域では、昭和46年の「淀川水系工事実施基本計画」により川上ダムと上野遊水地の複合計画で洪水時の流量調節機能を持たせ下流域の治水対策を図るものであります。

本市では、長田、小田、新居、木興の四地区(約250ha)遊水地計画が示され、以来周囲堤防の買収、遊水地となる土地の補償(地役権)を行い現在木興遊水地の周囲堤等の工事を進めてきておりますので、広大な農地の状態で、洪水時の湛水区域が明確になって参りました。

しかし、この間すでに30年の歳月を要しています。

合わせて、遊水地の本旨は本河川堤防の越流堤防から洪水時に流入し滞留させるとのことですが本河堤防締め切り工事はこれからの実施であります。

四地区遊水地は、年に数回の湛水被害を受けており、締め切り堤防施行順位も大きな課題であり、これまでの地権者説明において四遊水地の利害を最小限と定めるには、締め切りはできるだけ同時期に施行するとして事業への理解を得ておりこの実現が必要であります。

これがため第一に、本事業への集中した大幅な費用投入をいただける位置づけをおねがいします。

第二は洪水時に複合的な機能を果たすこととなり、特に大きな調整力を発揮する川上ダム事業の早期完成が重要でありますので事業促進方を要望します。

さらに第三は、本市が古来より洪水の常習湛水地となっている根源の岩倉峽の開削事業化の明確な位置付けであります。遊水地事業、川上ダムで流量調整(1300m³/sec)を図り、4,500m³/secの流下能力を持つ河川断面が確保されなければ本市の水害からの恐怖は解消されません。下流域との整合は必要と思っておりますが、下流域の安全を上流域の不安で対応することのないよう検討を頂きますようお願いいたします。

第四には、上野遊水地事業が治水対策として、下流域の洪水被害防止を果たしていることをご勘案頂く時、ダム事業等に比し特別な措置が講じられていません遊水地、及びその周辺の環境整備、内水対策等の課題が山積しておりますこの財源措置として水源地域対策特別措置法適用対象事業、また、(財)淀川水源地域対策基金の適用事業に採択頂きたくご要望申し上げますので検討をお願いいたします。

自治体	036	南山城村土木経済課第1課
-----	-----	--------------

南山城村の現状等

南山城村は、高山ダムを中心とした水辺レクリエーション地域として木津川の美しい景観と環境整備を本村の総合計画にあげています。

木津川は、本村の南部より中心部をとおり西に向きを変えて国道 163 号線沿いに流れています。流れ方向が変わる大河原地区では、増水のたびに大小の被害がみられます。

またこのことは、伊賀川との合流する田山地区でもみられ、住民の命と財産を守るためにも木津川の環境整備を考慮した護岸整備が必要な現状です。

自治体	044	門真市
-----	-----	-----

一級河川古川の水質浄化について(要望)

本市中央部を南北に流れる古川は、現在、淀川から寝屋川導水路を通じて取り入れられた水の一部が寝屋川を経て古川へと導水されております。この淀川からの水は、古川の水質浄化に対して大きな役割を担っているところであります。

本年 8 月に開催された、「門真市内における寝屋川流域河川整備に関する懇談会」におきましても、「古川は、もともときれいな川であり、魚がたくさん泳いでいた。今は水が汚い。」と嘆かれる地方の方々の声を聞いており、門真市民における古川の水質浄化への願いは強いものがあります。

一級河川古川は門真市内における貴重なオープンスペースであり、貴重な水辺であることから、安全で潤いのある街づくりの核となるよう、人々にゆとりややすらぎを与える存在となるよう、今後とも水質の改善に取り組む必要があると思慮するものです。

つきましては、今後も継続して、淀川本川からの適切な導水を行うことにより、古川の水質浄化に努められるよう強く要望するものです。

自治体	057	井手町
-----	-----	-----

木津川に対する意見

天井川に囲まれた本町にとって、大河川である木津川の治水対策は、住民の生命と財産を守ることで最も重大なことであります。

木津川の清流と緑豊かな棚田や里山に育まれた本町は、「第3次井手町総合計画」で「生まれたこと、住んだことを誇れるまち 井手町」を町の将来像として掲げ、豊かな自然を次代に継承していくとともに、安全で安心して暮らせる、また、活力を創出していくまちづくりを進めています。

本町は、昭和28年の南山城大水害により107名の尊い命が奪われました。以降、治水・砂防事業に努めてきました。幸いにも、大きな災害を受けてはいませんが、近年の異常気象による集中豪雨がいつ起こるかも知れません。

住民が安全で安心して暮らせる、また、活力を創出していく町にするためには、木津川の治水・環境の対策を進め、住民の憩いの場、健康づくりの場に活用することが必要と考えます。井手町の木津川に対する意見は、以下のとおりです。

記

I. 治水対策

1. 昨年、時間 100mmの集中豪雨が名古屋等で発生した。この豪雨に耐えうる河川となっているのか、なっていないなら改修を進めてほしい。
2. 木津川の堤体は、透水性のある土質であると聞いています。豪雨により、木津川が高水位になったとき、破堤することが考えられます。スーパー堤防の構造の河川改修を進めていただきたい。
3. 天井川に囲まれた町であり、内水排除を進めることは悲願であります。上ノ浜・鐘付悪水樋門の改修を進めていただきたい。
4. 井手町城では、国道24号が木津川の堤防を走っています。多くの方が木津川を通じ井手町を見られます。木津川は木々が生い茂り、それが原因で、ゴミ等も多く堆積しています。また、耕作地も清流木津川の風情にふさわしくない景観を呈しています。堤外民地を買収して、治水・景観対策を実施していただきたい。

II. 堤外地の活用

1. 木津川堤防は、国道24号が通っています。堤防を歩くことは、大変危険な状況です。河川とのふれあい、通行の安全を図るためには、遊歩道をつくっていただきたい。
2. 町の市街地は、木津川近くにあります。木津川の活用は、期待するところが多くあります。淀川上流域国営公園の事業を推進して運動公園、広場等の整備を進めていただきたい。

自治体	062	東大阪市
-----	-----	------

淀川水系整備計画における水質向上要望

江戸時代から、本市中部における農業用水の大半は「寝屋川から取水」し、張り巡らせた水路を利用して農業生産を行っており、水路は住民と密着したものであります。都市化の進展とともに水質の悪化は、水路に近づく住民をめっきり少なくしてしまいました。

しかし、近年の寝屋川導水路完成に伴い、寝屋川の水質向上は本市において顕著に現れました。

昔は亀しか生息できなかった水も、近年では鯉やフナも多くよみがえり、人気のなかった水路周辺も季節には太公望でにぎわっている現状であります。

水質向上は、住民のふれあい場を作り、うるおいとやすらぎを与え良好な環境を取り戻しているところであります。

このようなことから、きれいな水が地域を変えたと言えるのではないのでしょうか。

尚、現在も農業生産に利用している農業用水路は、五個水路延長約 3.7km六郷水路延長約 4.2kmであり、その支川水路の水質も目を見張るほど現れております。より一層の水質向上が望まれているところであります。

今後、さらに寝屋川の水質向上に多大に貢献している供給水の増量を強く要望いたします。

自治体	063	大東市
-----	-----	-----

本市は、大阪府中央部の東側に位置し、淀川左岸と大和川右岸に囲まれた寝屋川流域に属し、行政面積約18km²のいわゆる大阪市の衛星都市です。

現在、大阪府でも、寝屋川の河川整備計画の策定中であり、関係市として淀川についても大変興味のあるところで

す。
寝屋川の水質については、以前において全国ワースト1の汚名を何度か頂いた悪名高き河川でしたが、下水道の進捗と淀川からの取水の効果で、今では、川面に釣り糸を垂れる人の姿も見え喜んでいます。

本市では、生活環境の向上と浸水被害の低減をめざし、平成18年度末の下水道整備(人口普及率)を90%において進めております。

今後も、寝屋川の水質と水量確保について、特段の配慮をお願いします。

自治体	071	大山田村土木課
-----	-----	---------

三重県の北西部、伊賀地域の東端に位置する大山田村を、東西に貫流する一級河川服部川は、布引山系の伊賀越えに源を発し、高尾川、子延川等の支川を合流させながら西流を続け、途中場野川を合流させながら名阪国道を過ぎた後、柘植川と合流し上野市の北西部で木津川に合流している流路延長22.1kmの河川であります。

河川は治水、利水、環境という多用な機能を有する公共空間であり、人々の日常の生活に密接な係わりをもっています。

治水・利水機能と環境機能との調和のとれた豊かな河川環境を創り出すため、村では服部川の特長・周辺の社会及び自然環境等に十分配慮して、ふれあいの水辺空間整備事業により、魅力的なレクリエーションの場の提供を目的に、服部川の河川敷を親水公園「せせらぎ運動公園」として平成12年度に整備を完了いたしました。

総面積約4haの運動公園の中には、平成5年の台風による増水の影響で、井堰下流の流床から現れた化石(ゾウ・ワニの足跡)を忠実に再現した「あしあと化石広場」があり、訪れた人々があしあと化石に触れたり、古代琵琶湖の前身であった大山田湖の歴史を学習することができます。

このゾウの足跡化石は産出年代や足跡の大きさなどから、ステゴドンの子孫のシンシュウゾウのもものと推定され、日本最古で最大級のものとみられます。

ワニの足跡化石は数頭分が一定方向に進んだ痕跡として残されており、尾ざり跡らしきものもみられます。

このように、ワニ類の足跡化石の産出は、世界的にも学術上極めて貴重とされています。

また、この公園は、村の子供からお年寄りまでが利用できる総合的なスポーツゾーンとして中心的な役割を持っている施設でもあり、おおやまだスポーツフェスティバル等、数々の行事に利用しています。

今後は、レクリエーションや教育の増進に寄与し、地域の活性化が期待されます。

自治体	074	加茂町
-----	-----	-----

水辺に親しめる河川公園と治水事業の促進

加茂町における木津川は、聖武天皇が「みかの原」の地に恭仁京と称する都を造営されたころは、百人一首に収められた和歌に「いづみ川」と詠まれ、美しく、清らかな流れの川であったと思われております。

また、江戸時代から明治の初め頃までは、人々は、木津川の治水工事等に努力を重ね、舟運(帆掛け船)を利用して、京・大阪との交易を行っていました。

恭仁大橋上流は、右岸に流岡山があり、その山裾には瀬と淵が形成され、対岸の左岸には、白い砂と砂利の浜が形成された風光明媚な場所であり、昭和30年代までは、夏場には水泳場となり、大人から子供達まで大勢の人々で賑わっていました。

その後、子供達にとって「川は」危ない、危険だとして、水辺から人々は遠ざかるようになりました。

現在、この場所は、昭和40年代に建設された高山ダム(治水・利水としては重要な施設)の影響を受けているのか、水量が少なく、水勢も弱くなったため、河床には泥が溜まり、浜は侵食され、残り地には雑草が被り人々が水辺に容易に近づけなくなっている。

昔のように、砂と砂利の浜を復元し、左岸堤外地の高水敷を、自然とふれあえる公園として整備を行い、水辺と一体となった潤いの河川空間を作ってはと考えております。

治水事業は、住民の生命と財産を守るためぜひ必要な事業で、両岸の堤防の補強と築堤、特に恭仁大橋の下流左岸堤内地は、加茂町の中心市街地で、区画整理事業により社会資本の整備を進めております。また、右岸の河原地域の一部で無堤防区間があり、これらの整備を強く要望します。

自治体	093	宇治市
-----	-----	-----

淀川水系流域、宇治川のあり方について(意見)

初冬の候、貴委員会ますますご健闘・ご活躍のこと何よりと存じ上げます。

平素は、淀川水系流域、宇治川の治水、利水及び環境の整備と保全につきまして、ご検討頂いておりますことについて、感謝とお礼を申し上げます。

琵琶湖に源を発し、緑深い醍醐・笠取山地に深い先行性の峡谷を刻み、京都盆地に流れ出る宇治川は、とうとうとした清流と四季色どりを添えた緑を満喫し、その谷口は日本でも比類のない美しい景観をつくりだしています。

昭和 46 年3月の河川審議会では宇治川の計画流量は宇治橋付近で毎秒 900t から 1,500t に増やすことがめられました。

本市では、宇治橋周辺の美しい景観を大きくかえることから、昭和 48 年 10 月に市長の諮問機関として「宇治橋付近景観保全対策協議会」を設置し、同年 11 月に「宇治橋付近の景観保全について」の諮問を行い、昭和 52 年3月に答申を受けまして、この答申内容を十分に尊重した改修整備を旧建設省(現国土交通省)にお願いし、今日の宇治川改修はこれにより事業を進めて頂いております。

また、平成2年3月には、旧近畿地方建設局(現近畿地方整備局)と京都府等関係府県では、治水・利水機能を確保した上、淀川水系の河川特性、沿線地域の自然・社会環境、歴史・文化等を十分に考慮してかけがえのない河川環境の適性な保全と創造を計画的に進める指針となる「淀川水系河川環境管理基本計画」及び「淀川水系河川空間管理計画」を策定頂いております。

加えて、宇治川改修塔の島地区の河川改修整備については、景観及び自然環境・生態系の保全等、河川環境に配慮した改修計画を策定するために国土交通省が平成 12 年8月に設置しました検討委員会で検討され、これを淀川水系流域委員会に報告されて、今後の改修計画に反映されることになっております。

つきましては、現在進められております、今後の宇治川の河川整備基本方針及び河川整備計画の策定には、上記のことを十分尊重されますと共に、下記のことについてご配慮を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

記

- ・千年の自然・歴史文化が育かれた景観の配慮。
- ・今日、河川施設の漏水等危険箇所が存在しており、これら危険箇所の安全・安心の出来る早期整備。
- ・今日まで、自然・環境が開発等で損なわれて、鳥類、植物、動物等に影響を与えてきており、自然・環境・生態系に配慮し、これらが蘇る河川整備。

(大阪湾から鮎・シラス鰻などの溯上が可能な魚道の整備、カワセミの営巣の確保。)

- ・治水・利水の整備のみならず、市民(幼児から老人まで)が身近かに親しめる、憩い、安らぎ、くつろぎ、遊べる河川空間整備。

(親水性護岸、魚巢護岸、高水敷でのレクリエーション等の芝生広場の整備、ジョギング・サイクリングロードの整備、堤防等にパーゴラ・シェルター・ベンチ・便所等の休憩施設の整備、野鳥観測所、ビオトープの生息空間の確保等)

- ・水質汚染が進んだ今日、水質浄化が出来る河川整備。
- ・地震等防災時の復旧救援活動として水が必要で、このため河川水の応急利用としての堤外地への進入搬路の確保。

上記事業の積極的な推進を考慮すれば、かつて「経済財政諮問会議」で公共事業費の縮小が議論されていますが、地域住民のための「安全・安心」な地域環境づくりには必要十分な事業費の確保が、是非とも必要になるものと考えます。

自治体	095	上野市
-----	-----	-----

淀川水系の治水の早期成就について

当上野市は、淀川水系の支川である木津川、服部川、柘植川の三大河川が市域を流れ、市北西部で合流して岩倉狭の狭窄部を西流し淀川へと合流しております。

当市は、昭和 28 年9月の台風 13 号、昭和 34 年9月の伊勢湾台風等で、市街地周辺の約 540ha の湛水、人家 200 戸の浸水被害を受けるなど、古来より洪水の常襲湛水地となっております。

ご承知のとおり、昭和 42 年に木津川上流が直轄区域に編入され、昭和 46 年の「淀川水系工事実施基本計画」より「上野遊水地事業」と上流部の「川上ダム建設事業」の二箇所の施設で、洪水時の流量調節機能をもたせ、基準地点の島ヶ原地点で 1,300 m³/s をカットし下流地域の治水効果を図る計画であります。

上野遊水地事業については、長田、小田、新居、木興の4遊水地で約 250ha の遊水地を計画され、昭和 45 年から着手していただき、関係地区民並びに地権者のご理解ご協力等を頂きながら用地買収、地役権補償が完了。また3遊水地の周囲堤も完成いたし、現在木興遊水地の周囲堤等の工事に鋭意努力いただいております。しかし、工事着手から約30年経過しておりますが、当事業の進捗は、6割弱と伺っております。今後、越流堤、減勢工本川堤等々の工事施工が多く残っている状況であります。

つきましては、一日でも早く淀川水系の河川の氾濫を防ぎ、流域住民が安心して生活できますよう、当事業予算を大幅に増額し、強力な推進が不可欠であります。

さらに、前段にも述べましたが洪水時の流量調節については、上野遊水地事業と川上ダム建設事業のセットで調節する計画であることから、大規模な流量調節が期待できる川上ダムの早期完成が重要な課題であります。

自治体	096	守山市
-----	-----	-----

淀川水系(野洲川)の将来展望について(要望)

野洲川は、琵琶湖に流入する県下最大の河川であり、沿岸の地域住民にとって生活に密着した川であるとともに憩いの場であり、地域住民すべての“こころのふるさと”です。古くは、『近江太郎』と呼ばれた暴れ川も、野洲川改修事業により昭和 61 年に概成し、今日に至っており、平成8年度には「ふるさとの川整備事業」の指定河川となり、当該指定区間については護岸整備や緩傾斜堤防による河畔林整備等がなされ、治水面とあわせて河川環境の創出が図られました。

一方、野洲川下流域の新放水路約7km区間においては、概成以来、流雑木が繁茂し、流水の阻害をきたし、その景観は漂流物(塵埃類)も堆積し非常に見苦しくなっています。

野洲川などの改修された河川は、治水機能・利水機能・親水機能とあわせた生態系の創出や高水敷等の利活用により、沿岸地域の安全で快適な水環境が活かされ、沿岸住民の生活環境に潤いをもたらし、地域における自然的環境としても注目されるものであらなければならないと考えております。

特に、野洲川改修事業前における下流の沿岸地域は、伏流水が豊富で湧水池も多く、野洲川沖積平野のすべての農業・生活用水を潤してまいりました。しかし、野洲川改修事業や経済発展等に伴う地下水の汲み上げなどにより、今では湧水はすべて枯渇、地下水源も低減の一途であります。

とりわけ野洲川新放水路に用地を提供した旧野洲川北流・南流の中間地域(中洲地域)は、自然的水源が無くなり、農業用水期の琵琶湖逆水の時期以外は、全く雨水のみで昔の清らかなせせらぎはありません。

本市といたしましては、市民生活に深く関わっております野洲川の整備とともに野洲川沿岸地域としての水環境の復活整備は不可欠であると認識いたしており、とりわけ野洲川の水を沿岸地域の生活環境用水として導水(利水)が図れますよう、総合的な河川整備計画を策定いただきたく存じます。そして、ふるさとの川野洲川で自然と人が生き生きとふれあい、環境学習や自然教育の場、人々の交流の場として高水敷などの河川空間が整備され、沿岸地域が水環境の保全された地域として発展するよう切望します。

自治体	105-01	三重県伊賀県民局企画調整部
-----	--------	---------------

流域はひとつ ～ 県域を超えた流域圏づくりを ～

私の住む三重県伊賀地方は木津川の源流地です。京都府八幡市で、桂川、宇治川と合流し淀川に注ぎ込みますが、かつてはその三川の中で木津川が最もきれいな川だと言われていました。しかし、近年の大規模開発や森林の保水力低下による水量の減少、人口増加による負荷の増加に加え排水対策の遅れなども原因して、その水質は悪化し、木津川の姿は大きく変わってきています。

そういった現状をふまえ、平成10年に、三重県伊賀県民局は「木津川流域リフレッシュ事業」に着手しました。伊賀地域の市町村などと一緒に、昔の木津川をとりもどし、もう一度人と川の豊かな関係を回復することを目的としています。これまでシンポジウムや流域研究会などを開催し、その課題解決に向けて議論を重ねるとともに、県域を超えたネットワークづくりを目指して、情報交換等を行ってきました。また今年度からは「木津川流域いっせい水環境調査」と題して、住民や市民団体、企業、学校などの協力を得て、伊賀地域内における木津川流域約100ヶ所でバックテストによる水質調査を毎月行っています。来年度は、「みんなで守り育てる伊賀の森と川」をテーマに、木津川の水源地となる伊賀の森林が抱える問題点をふまえた事業を展開していきます。

これまでの活動の成果として、木津川がよみがえってきているかどうかは、疑問のあるところですが、少しずつでも木津川を美しく再生するために、今後も努力を重ねていきたいと考えています。

しかし、下流である関西圏の住民の方たちには、水源は琵琶湖であると考えられており伊賀地域もそのひとつであるという認識はされていません。川の問題を総合的に捉え、その多岐に渡る課題を解決するためには「流域はひとつ」であるという一体感が必要と考えます。「河川整備計画」に直結するものではありませんが、県域を超えた流域圏づくりを視野に入れた川づくりを提案いたします。

自治体	129	中主町
-----	-----	-----

意見(対象は琵琶湖)

琵琶湖は、社会経済活動を支える貴重な水資源としてだけでなく、その良好な自然景観によって私たちの心にうるおいや安らぎを与えてくれるとともに、生活に密着した淡水魚の供給や水上交通の利便など古来から有形無形の恵みを与え続けているかけがいのない資産です。

しかし、生活様式や産業形態、集水域の土地利用の変化に伴い、河川の汚濁物資や農業排水等の流入によって琵琶湖の水質汚濁は進行し、カビ臭、淡水赤潮、アオコが発生するなど、富栄養化は依然として大きな問題となっています。

さらに、近年のマリーンスポーツの流行やアウトドアブームにより、多くの若者や家族連れが訪れ、湖辺ではゴミ放置や騒音公害といった新たな問題も発生しています。

また、私たちが生活する上で快適な環境をつくることは、大変重要な問題です。

単に自然を保全するというだけでなく、大量生産、大量消費という人々の日常生活や、事業活動を見直し、自然と共に生きる資源循環型社会を築いていく必要があります。

今後は、私たちや子孫のためにも、住民、事業者等環境に配慮した、環境負荷の少ないライフスタイルや事業活動を実践し、琵琶湖の保全をはじめ自然と共生した美しい快適環境のまちを形成していかなければなりません。

具体的には、①保全対策として、水洗化の促進や農業廃水対策とともに、環境美化運動の推進やビオトープの創設等を図り、琵琶湖の水質汚濁の防止又、琵琶湖河川へのゴミの不法投棄や水上バイクの騒音を防止するために、琵琶湖を訪れた人々に対するゴミの持ち帰り運動やマナーの普及と啓発がありますが、特に本町としましては白砂青松であったアヤマ浜は湖岸の侵食とヘドロによって往時の姿をとどめず荒れ果てた状態にあります。侵食を防ぐ早急な対策の必要性。②公害防止対策として、快適で住みよい環境を阻害する様々な公害を未然に防止するため、関係機関との連携により発生源に対する監視、指導体制を強化するとともに、住民一人ひとりの公害防止に対する意識を高め、環境保全と合わせた住民運動の促進。③住民活動の支援として、環境循環型社会を目指し、リサイクルや省資源、省エネルギーを進める住民活動を支援するとともに、住民、行政が一体となってグリーン購入やエコライフ活動の推進に努め、住民が環境保全についての理解や認識を深めることができるよう、環境に関する情報の充実。④総合的な環境施策の推進として、環境と共生するまちづくりを目指し、環境保全に関する施策を総合かつ計画的に推進するため、環境基本条例の制定や環境基本計画の策定を進めるとともに、太陽光や風力による発電システム等新エネルギー利用の普及に努めると共に住民、行政、関係機関が琵琶湖・河川の保全と快適な環境づくりを意識しながら推進を図って行きたいものです。

自治体	140	山城町
-----	-----	-----

淀川水系河川整備計画に伴う意見について

淀川水系流域委員会におかれましては、川の姿、川の想い、を広く住民・自治体から意見を聴取して整備計画を決定されますことに敬意を表します。

本町と木津町及び精華町の境界を流れます木津川の景観は部分的には川に親しめる空間はありますが、草木が繁茂し、川辺に近づくことも困難な箇所があります。

川に親しみ、川と共に生きる川のイメージには程遠いものであります。

早急に草木の伐採を行っていただき住民の心の中に脈々と流れる川の景観を取り戻して頂きたい、下記の事項について整備計画に位置付け頂きます様意見を提出いたします。

記

1. 淀川水系(木津川)の問題点について.

木津川の豊かな自然と広大な空間は、水と緑のオープンスペースとして生物や人間にとって貴重な存在であります。しかしながら人々が集える公園緑地がありません。また、一部の農地以外は雑草・雑木等が生い茂り除草等により維持管理されているだけであり、水辺に近づけないほど荒廃している地域があります。

2. 淀川水系(木津川)の理想及び要望について

1. 木津川の堤防は砂山となっているため、豪雨時に破堤の恐れがないよう**堤防の強化**を要望します。
2. 堤内地の有効な排水機能の確保のため**北河原樋門・西殿樋門の改修及び堤外地の河床低下**行うとともに、集中豪雨にも対応できるよう**内水排除施設の整備**を要望します。
3. 開橋より北の堤防敷きは国道24号と同一の機能を有しており市街地形成においても支障があるため、国道24号と木津川堤防の分離を要望します。
4. 市街地の中を流れる川として、人々が集え、**緑と水に触れ合える「国営山城木津川親水公園」**の整備を要望します。

3. 淀川水系(木津川)の整備実施方法

河川空間の利用形態は、見通しの良い広々とした連続空間の中で、陸地では体験できない水・緑・生物などとの直接的なふれあいを中心的に展開しています。

緑と水に触れ合える「国営山城木津川親水公園」の整備実施内容について

開橋より北部(北部地区)

除草等の維持管理の強化を図り新たな緑地の形成。

お茶の樹園地の保全推進。

開橋付近『水辺空間公園』(中部地区)

人々が集え、水と緑に触れ合える空間として、**「オートキャンプ場」「ミニパーク(子供が遊べる)」「親水広場」「駐車場」**等の整備。

開橋より南部

本地区は農業振興地域であり、優良農地の保全し農業環境を利用した空間として、保全管理農地の貸農園化。

町立木津川コミュニティ運動広場の整備

樹木を多くし緑化を推進。

泉大橋付近『親水公園』

旧奈良街道(山背古道)の復元もかねた**「堰堤・潜没橋」を築造**し、豊かな水辺空間の形成を図るとともに、笠置を起点とした「カヌーやボート遊びの到着地」の整備。

水の浄化を促進する植物の植栽や竹炭等を使用した親水公園を実現するため、**「せせらぎ広場」・「湿生植物園」**や子供が遊べる**「ミニパーク」「親水広場」**等の整備により水と親しむ空間整備。

木津川沿道

水辺レクリエーションの充実を図る一環として、水と緑のネットワークが必要と考える。

そのため、①～⑤までの親水公園・農地等を**緑道(遊歩道)・緊急車両道路**によってつなぐための整備。

なお、緊急車両道路については、大阪湾まで続くよう整備を要望します。



堤防上をとおり国道24号



上粕南部の優良農地



旧泉大橋(潜没橋予定地)



西殿樋門



町立木津川コミュニティ運動広場



美しい木津川へ

自治体	143	木津町
-----	-----	-----

淀川水系河川整備計画への意見

木津町は、母なる川「木津川」と共に発展してきたと言っても過言ではなく、様々な歴史・文化が育まれてきました。

この木津川が、近年、心持たない人達による「ごみ等の不法投棄」や「内水対策」に関する問題、更には、自然とふれあうレクリエーションの場として関心が持たれています。

しかしながら、都市化による河川環境の悪化や生活環境の変化により、河川と住民の距離は遠ざかり、住民や行政による様々な取り組みや自然環境への意識の高まりなどにより、住民と河川の距離は徐々に近づきつつあるものの、まだまだ以前のように深く関わりのある状況ではありません。

また、河川やダムの整備が進んだことにより、洪水等の被害は少なくなり、住民の河川災害に対する危機感や恐怖心は希薄になってしまっています。

今後、より良い川づくりを行うためには、治水や環境など行政側からの適切な情報提供も必要ですが、住民が川とふれあい、親しみ、知り、考え、そして行政と連携することがより大切であると考えます。

しかしながら、木津町域には先ず最初の一步となる住民が川とふれあい、親しめる空間が少ないのが現状です。

より良い木津川の整備を行うためには、また、木津の文化や歴史を伝承していくためには、先ず最初の一步となる住民が川とふれあい、親しめる空間の整備が必要であると考えます。

具体的な意見としては、次の通りです。

内水対策として内水強制排除施設の整備

無堤地の解消と安全な堤防の整備

農業利水の確保

ごみを投棄されない環境の創造

雑草、雑木の伐採

河川公園の整備

- ・国営公園としての整備

- ・水辺と一体となったレクリエーション空間の整備

- ・歴史的風景の再生と自然環境の保全・再生

- ・水辺の生態系の保全とふれあいづくり

- ・歴史的なまちなみとの連携と旧泉橋の復元による歩いて楽しい水辺整備

自治体	145	びわ町
-----	-----	-----

姉川および高時川に関する現況と問題点等について

● 歴史および現況等

【天井川と水害】

姉川と高時川は天井川である。その下流域に広がるびわ町では、昔から洪水に悩まされ続けてきた。昭和50年の台風6号の時は、高時川錦織地先堤防が決壊寸前にまでなり、町職員や地元消防団が水防活動をおこなった。住家や農作物にも被害が出ており、姉川沿いの大浜区では集落内の道路が30cm程度水没した。また、昭和34年の伊勢湾台風の際には、堤防の決壊に備えて多くの人々が避難したほどであった。現在になっても大水時には堤防から水がしみ出し、時にはブロックの隙間から勢いよく流出しており、周辺住民が不安に暮らしているのが現況である。

【昭和50年8月23日：台風6号】

『姉川・高時川は、朝から警戒水位を突破、流木などをのみこみながら濁流となって、琵琶湖に流れた。桑畑のある河川敷も流れの下になり、高さ6mの土手に迫るほどの水量、町職員や地元消防団ら約50人が午前10時ごろから出て土嚢積みをして警戒にあたった。このため、難波橋・錦織橋・美浜橋は午前1時半通行止めにした』…朝日新聞(S50.8/24)
『錦織の水源地付近の堤防から水がしみ出ているため、土嚢止めの杭を打ち、土嚢を積んでいった。朝から昼間にかけて、みるみるうちに川の水位が上がっていき、当時架かっていた木造の落合橋も流されてしまった』

…S50当時の消防団副団長：塚田重昭さん

【四ツ手網漁】

町の主要な河川である姉川下流では、浜独特の四ツ手網漁法による小アユすくいが盛んであり、初夏の風物詩として広く全国に知られている。

『以前は1日に最高4tほど捕れた日もあったらしいが、今では10kg～20kgほどしかとれない』…南浜：中川衛さん

【びわ町の飲料水】

びわ町民が毎日利用している上水道の水源は、姉川・高時川の伏流水である。川道水源地・錦織水源地で取水した伏流水は、それぞれの配水池に蓄えて消毒処理し、各家庭に届けられている。

● 問題点と要望等

【水害対策①】…護岸整備

◎問題点：台風等の大水時には、堤防法面の護岸ブロックの隙間から水が勢いよく流出しており、決壊等による大災害が発生することが大変危惧されている。(高時川：錦織地先)また、高水位護岸が未整備である区域が多数ある。

◎要望等：災害の未然防止のため、その原因究明と護岸ブロックの再整備を早急の実施願います。

高水位護岸未整備箇所については定期的に整備願います。

【水害対策②】…雑木伐採・堆積土砂浚渫

◎問題点：堤外地に雑木が大量に繁殖して河川断面を侵しており、水害につながる危険性がある。また、そのために河の流れが変わり土砂が局部的に堆積して、更に水の流れる幅が減少していくという悪循環に陥っている。また、漁業を生業にしている住民にとっては死活問題でもある。

◎要望等：雑木伐採と堆積土砂の浚渫により、河川断面を通常のものに復旧願います。

【不法投棄対策】…親水空間の整備

◎問題点：河川管理者の管理区域である堤外地が民地のままで買収されておらず、土地所有者では管理しきれない土地が多数ある。それらの土地に雑木等が大量に繁殖しているため、一般家庭ゴミや産業廃棄物等の不法投棄が頻繁に起こっている。

◎要望等：不法投棄が起これぬよう堤外民地の買収等をおこない、親水空間として整備願います。また、河口付近は水泳場や南浜ぶどう園等の観光地が近い「四ツ手網漁の見学」等の漁業関係施設や、「パークゴルフ場」等の遊技施設といった観光スポットとしての整備、またその他にも農業振興を目的とした「野菜の試験農場」との整備が考えられます。

自治体	147	枚方市
-----	-----	-----

将来の淀川のあり方についての意見

1. 基本的事項

本市は歴史的に淀川の恩恵を受けて発展してきたが、一方で、洪水による浸水などの被害も受けてきた。広大な水面と河川敷は多様な生物の生育・生息環境であり、レクリエーションの場である。また、その水は上水源でもある。このように市民生活に不可欠な淀川が今以上に安全で、より身近で魅力的な環境を有する河川になることを期待する。

2. 分野毎の意見

治水

- ・スーパー堤防等堤防強化策を講じるとともに、堤防決壊の可能性についての情報の周知と水防活動の充実が必要。河川管理者との積極的な協働を期待する。

利用

- ・上水源の水質に対する市民の関心がきわめて高い。水質の改善を進めるとともに、水質検査の充実と情報公開、広報について関係機関との協働を期待する。
- ・河川敷は早期の公園整備を期待するが、河原を再生するなど、従来以上に自然にふれあえる場として整備する。利用拠点では快適なトイレや十分な日陰を確保する。また高齢者等も利用しやすい施設づくりに配慮する。
- ・舟運は多様な可能性があることから、河口から伏見・宇治まで航行できるようにするとともに船着場の増設を期待する。また、市街地からのアクセスには十分な配慮が必要。
- ・大阪府域と京都府域の広域自転車道路を連結し、安全で広域的な利用を進める。
- ・学校教育、生涯学習で一層活用するために、安全性への配慮とともに、人材や教材の充実を図る。

環境

- ・ゴルフ場は存続を期待する声もあるが、将来的には廃止の上、自然とふれあえる場に復元整備する。廃止までの間は、農薬使用を中止するとともに、淀川の水辺にアクセスできるルートを確保する。
- ・淀川は野鳥などの多様な野生生物の生息地域であることから、ワンドの復元や水辺や植生の保全を図り、今後一層多様な自然環境の維持、再生を図る。
- ・不法投棄がないよう、河川管理を進める。

まちづくりとの関係

- ・スーパー堤防事業の推進にあたっては、堤防上部に建設される大規模建築物による河川と市街地の連続性や景観への影響を軽減するような仕組みを確保するとともに、堤防上部の国有地の土地利用については地域の実情に合わせ、沿川自治体の意向に留意する。
- ・淀川の自然、歴史などが総合的に学習できる施設を整備する。

<意見提出にあたっての手続き>

今回提出の意見は、約265名の市政モニターを対象にしたアンケート、市環境審議会の意見、市役所各課による庁内会議等を経て、とりまとめたものである。

自治体	152	野洲町
-----	-----	-----

野洲川

鈴鹿山系に源を発する野洲川は、県内最大の河川で、沿川地域住民にとっては掛け替えの無い生活の場であるとともに、憩いの場でもあり、人々の心に根づいたまさに「ふるさとの川」であります。古来より地域に大きな恵みを与えてまいり、「近江太郎」と呼ばれ親しまれてきた一方、度々大きな水害を引き起こした暴れ川でもありました。このようなことから、国による新放水路を含む大規模改修事業を敢行願ひ、昭和61年にはこの事業が概成し、特に治水面でより安全な河川となり、沿川地域住民一同大変喜んでいただいております。

現在国においては、暖傾斜堤防や河畔林の整備等、「いのちを育む淡海の川づくり」に向け工夫を凝らした事業を展開していただいております。また一方で、沿川市、町におきましても、平成8年にふるさとの川整備河川に指定、また、平成10年にはふるさとの川整備計画の認定を受け、住民の意見を広く取り入れることにより、官民一体でやすらぎとうるおいを求めた河川空間の整備を進めているところであります。

河川はご承知のとおり治水、利水はもとより、河川環境の保全、創造が新たな主眼となっており、現在では自然を生かした川づくりが求められております。前述致しましたように本川は、治水面においては改修事業により安全な河川に改修して頂きましたが、利水、あるいは環境面ではまだまだ改善すべき課題が山積されていると考えております。

利水・特に農業用水としては、用水の安定供給のため石部頭首工の改築計画が進められております。しかしながら、これら河川との整合、また、今日までは野洲川の地下水、副流水が豊富であったため、本町におきましても沿川にはいくつかの湧水池があり、住民の生活の場として親しまれてまいりましたが、これらがほとんど枯渇し、現在は無くなっている状況もございます。

また、環境面では特に野洲川は、冬場の渇水期には中流部において、流水がなくなるという現象がございます。これは雨量の関係もあると思いますが、魚が生息出来ない状況になります。また、野洲町域に落差工が一個所ございますが、魚道はあるもののこれより上流には魚類の生息数が減少しているという現状もございます。琵琶湖においては、イトモロコやイサザ等琵琶湖だけにしか生息していない固有の魚等が数多く生息致しております。そういった意味でも、渇水期においても魚等が生息できる環境や、最新技術を駆使した魚道等の検討など、今後は生態系を育むような川づくりの検討も必要と考えます。

また、新たな川づくりも重要であります。これらの後の適正な維持管理というものが非常に重要であると考えます。現在国では、河川敷の除草後の草のリサイクル化ということで、実験施設も造られ検討されていると聞いております。しかし、反面河川にはごみ、車等の不法投棄が耐えない状況であります。こうした現状をふまえ、河川愛護の啓発等を含めた管理面も検討の必要があると思っております。

いずれにいたしましても、本町と致しましては、河川空間の利用等親しみのある河川として、住民の意見を聞きながら、野洲川をふるさとの川として将来も見守り育ててまいりたいと考えております。

自治体	154	久御山町
-----	-----	------

河川整備計画に係る意見について

(総務課)

木津川右岸久御山町地区堤防補修(その6)工事が現在実施されているが、引き続き速やかに軟弱箇所の補修工事を実施していただきたい。また、右岸堤防は、自転車・歩行者専用道の整備が左岸に比べかなり遅れているが、流れ橋を含め住民の憩いの場として最適な場所であるため整備願いたい。

(道路河川課)

ダムによる治水対策よりも、同じだけ建設費が投入できるならば、大河川に流入する支川に洪水調整池を設け、洪水時の負荷の調節をおこなってはどうか。川や川周辺に生息する生物の生態系にも配慮ができると思われる。

また、水質についても河川環境上たいへん重要な問題である。下水道事業の推進により支流各河川の水質も徐々に向上していると思われるが、汚水処理場で浄化された処理水をトイレ洗浄水等に再利用し、出来るだけ放流水を少なくすることが必要であり、さらにいえば、汚水に限っての流域閉鎖が理想である。

本堤の整備であるが、近年、堤防の決壊に至るような洪水が少なくなったとはいえ、堤防の整備なくして治水を語れない。まずは、河積の不足の解消から危険箇所の強化を図ることが大河川管理の重要な業務であると考えるところである。そこで、スーパー堤防あるいは、堤内地に肉盛をして地域住民の憩いの場とする国有河川公園的な整備を併せて図られたく考えるところである。また、堤内地においても水と親しめる施設づくりに欠かせない取水施設と一年を通じて取水できる導水路の整備を願うところである。

(都市計画課)

本町も加盟する淀川上流域国営公園推進行政連絡会では、淀川河川公園基本計画において京都府域が位置付けられ、次期都市公園等整備五箇年計画において更に整備が促進されるよう国に対して要望しているところです。

また、淀川水系河川整備計画の策定に当たっては、淀川河川公園基本計画の改訂と調整が図られるものと聞いております。

つきましては、淀川河川公園フォローアップ委員会が出されている「淀川河川公園基本計画改訂に向けた提言」にあります、自然や歴史を活かした公園計画との整合が図られた河川整備計画となりますよう御配慮願います。

(社会教育課)

現在、木津川河川敷運動広場として球技場及び野球場があり、広く住民やスポーツ団体に利用されているところであるが、住民が憩える水辺公園や散策路を整備していただきたい。また、巨椋池には、たくさんの野鳥が生息しているが、淀川水系でも多くの野鳥が憩い、生息できる場所を残していただきたい。

(消防本部)

河川の護岸工事が進んできていることは良いことであるが、その反面、水防訓練の実施箇所がなくなってきており、訓練に支障が出てきている。堤外に(河川の一部)に訓練用堤防を作っていただきたい。

自治体	174	大宇陀町
-----	-----	------

淀川の上流にあたる宇陀川、その上流 大宇陀町上宮奥は、淀川の源流で、淀川、紀ノ川の分水嶺になる。

昭和40年代、日本の経済成長と平行して川が汚れていった。大宇陀を流れる宇陀川もその例外でなかった。下流に室生ダムの建設が始まり、奈良県民の水道用水になるという事で大宇陀町も「川をきれいに」の呼びかけが住民に行われるようになり、その一環として下水道事業も山間部の町としては、早い取り組みとなった。そのためか、最近宇陀川もいくぶんきれいになって来た。

人は川と昔から切っても切れない中、人々の生活の始まりも川の畔からで、昔話の「桃太郎」「一寸法師」も川が主役。私たちの年代(1930年～40年)の少年時代は「川」と「山」が遊び場所、その中で育った。その頃の川の水は、豊かで美しくメダカ、鮠(はえ)、沢蟹捕りを楽しんだものだ。山も里山は、ほとんどが広葉樹。そのため、保水力も豊かで年中川の流れもきれいであった。

日本経済の成長と併せ、川の汚れが目立つ頃から子どもたちは、川で遊ばなくなり、広葉樹の里山が針葉樹の杉、桧に変わり、子どもたちの声が川や山から消えた。そして、花粉アレルギーが人々を苦しめるようになり、同時に川から、メダカ、沢蟹や夏の風物詩である蛍の姿も消えていった。

今、私たちがすべき事は、里山を昔の里山に戻すことである。そして、川の水をきれいにするために、国、地方公共団体は、次の事に対し積極的に取り組んでいくべきではないか。

- 下水道事業のあり方の見直し 国土交通省の下水道事業、農林水産省の集落排水事業、厚生労働省の合併処理槽 この三者の枠を越えた一本化した事業の取り組みを国が早急に行う必要がある。
- 現在の川の工事は、自然環境を無視した、コンクリート、ブロックが主流。生物の棲みやすい、生き物にやさしい川づくりが必要。そのためには、間伐材利用のウッドブロックの有効活用が出来ないものか。

川に生き物が戻れば、人も川に戻って来る。そうすれば、奈良県の提唱する「いきいき川づくり事業」も生きてくる。

川と山は一体のもの。里山を針葉樹から広葉樹への運動が大切。これも国の支援が必要。山が広葉樹に戻れば保水力が高まり、川を豊かにきれいにする。山の見直しがなければ川が豊かにならない。そのためには、川をきれいにするという住民の意識改革が必要である。自然いっぱいの日本の河川を呼び戻すための先がけは、まず、淀川から(日本中に)発信していかなければならない。

自治体	180	島本町
-----	-----	-----

淀川水系委員会への意見について(意見)

本町は木津川、宇治川、桂川が合流する大阪府の北東端に位置しており、古くから水陸とも交通の要衝として栄えてまいりました。江戸時代には、淀川に三十石舟などが行き来し、山崎、広瀬、高浜などに、橋本や樟葉への渡しがありました。

現在、陸路は国道171号、名神高速道路などがありますが、慢性的な交通渋滞を発生しています。出来れば、淀川の船運を復活し、通勤、観光そして、緊急時の物資輸送に利用できないものかと考えております。技術的、経済的など多くの課題があるかとは思われますが、貴委員会において、ご一考願えればと考えております。

また、本町は自然に恵まれ水と緑を誇りとしております。特に水は環境庁の名水百選に選ばれた「離宮の水」があり、本町の水無瀬川をシンボルとした『島本 水の文化園構想』も実施しております。淀川につきましても、多くの自然が残されており親水機能の充実に努めていただきたいと考えております。

先般、本町において国土交通省がスーパー堤防工事を実施され淀川堤防の裏法に公園を設置していただき、多くの住民の方が利用されております。

スーパー堤防事業は治水を主目的としたもので河川のあり方については、治水は重要事項であることは勿論であります。まちづくりや親水機能の充実の点からも、大変有意義な事業であると考えております。

しかし、この事業制度には多くの問題点があり、例えば、スーパー堤防事業として直接用地の買収が出来ないこと、事業実施により活用できる裏法の個人住宅地への代替地としての提供などが出来ないこと、個人住宅地において事業を実施する場合には堤防盛土時に移転し盛土完成後、再び移転するといった2度移転の問題、また、盛土完成後に代替地に移転を行う場合には、区画整理事業として取り組まなければ、税制の特例を受けられないといったことなどです。(スーパー堤防事業制度だけでは、代替地に移転した場合税制の特例を受けられない。)

本町においては、大阪府を始め関係市と共にこれらの制度改正を国に働きかけておりますが、思うような成果が得られず、スーパー堤防事業の進捗を妨げる要因となっております。

つきましては、貴委員会も治水、親水、まちづくりのため、このスーパー堤防事業が進捗しますよう制度改正にご尽力をお願い致します。

自治体	182	摂津市
-----	-----	-----

淀川水系流域委員会への意見書

(1) 淀川河川公園「鳥飼下地区」の整備について、摂津市は新興住宅地でございますので公園が非常に少なく、淀川の河川公園を含んでも市民一人当たり約5㎡しかございません。

摂津市では、この河川公園が整備されるまでの間、暫定的にという条件付きで、占用を認めていただき、市民の野球場を2面、サッカーの練習場を1面本市が整備し利用させて頂いており、市民の利用が非常に多くありました。

国土交通省では、淀川河川公園鳥飼地区計画懇談会で基本計画に本市の要望を取り入れていただき、暫定的場所の方針を変更、整備方針と施設の内容が決定されました。平成10年度より、サッカーコートやフットサルコートの整備に着手され、平成12年10月より供用開始をしていただいたことにより、本市のサッカー連盟の児童をはじめとする同好の皆様も大変喜ばれ、オープンフェスタの折には、多くの人が参集いたしました。

今後も、グランドゴルフ場を中心とする未整備施設の早期着手に向けて、議会をはじめ、周辺の住民より強い要望を受けておりますので、どうか、本市のご事情をご賢察のうえ、事業実施に向けご尽力をお願いします。

(2) 水面利用等につきましては。

・ 京都～大阪を結ぶ水上交通の復活を目指して、「淀川舟運整備推進協議会」を発足させ検討いたしてまいりました。

舟運は、防災や観光、流通などに多面的な働きが期待できますので、国土交通省をはじめとする関係者と、淀川沿川の各自治体が一体となって、各種の取り組みを進めていく必要があります。

・ 提案としてスーパー堤防上である神崎川緑地公園付近に、PFI方式でレストランと便所を作ってはどうか。

以上、淀川沿川の自治体としての意見でありますので、格段のご配慮がなされるようお願いいたします。

自治体	183	守口市
-----	-----	-----

【街づくり関係】

本市における淀川は、貴重な自然的環境やオープンスペースであり市民の憩いの場でもあります。川の生き物や水と親しめる水辺、鳥等の生物が生存する自然環境と歴史環境の保全・整備を図っていただきたい。

また、現在、大日交差点付近の交通混雑を解消するために近畿自動車道と阪神高速道路を接続する旨の要望を、国土交通省、日本道路公団及び阪神高速道路公団に要望しています。実現に当たってはそのルートによっては高規格堤防(スーパー堤防)と重複すると考えられますので、これらを考慮した整備をお願いしたい。

【上水道関係】

本市の水道資源は、淀川表流水に全面依存していることから淀川水質の悪化や水位低下等をきたすと、安定した利水形態が保てなくなり水道運営が左右されるものです。

このことから、以下の事項を意見として揚げさせていただきます。

- ①淀川水質の改善を今後ともお願いしたい。
- ②水位調整により水位低下させる場合は、摂取量の確保が出来るようお願いしたい。
- ③淀川護岸工事、改修工事(わんど)による、本市取水施設との整合性及び事前工事調整をお願いしたい。

【河川関係】

本市東部地域に接する古川は、河川浄化を目的として、淀川本川から寝屋川を通じて導水を行っているところです。しかし、未だ清浄な状態とは言い難く、古川が都市内における貴重なオープンスペースであることから、今後も継続して淀川本川からの適切な導水を行うことにより、河川の水質浄化に努められたい。

自治体	202	栗東市土木課
-----	-----	--------

本市は、平成13年10月1日滋賀県下8番目の市となる栗東市として市制を施行いたしました。

現在市の人口は56,498人(平成13年10月1日)を有しており、人口増加率におきましても県下有数の伸び率であり、今後も新幹線新駅(仮称)「びわこ栗東駅」の誘致を進め、県の新たな玄関口としての周辺整備を進めているところであります。

地理的には、琵琶湖湖南に位置し、東方には一級河川野洲川、西は草津川に接し南には、標高693mの阿星山及び金勝連峰が連なり概して南半分が丘陵地帯であり自然美に恵まれた穴口、雨丸、金勝、細川の諸川の溪流が合流して草津川となり琵琶湖に流入しており、北半分は5～8%の緩やかな傾斜をなした湖南の穀倉平野として開け豊かな清水にもめぐまれています。

また、国土主要幹線であります国道1号、8号線名神高速道路が通過し、産業基盤立地にも適し工業や宅地開発が進行しています。

自然環境に恵まれた地域である反面、市内を流れる主要河川は天井川であり、過去にはこの氾濫や決壊により甚大な被害をもたらしたこともありました。

現在草津川や、葉山川、金勝川の平地化が進められておりますが、この進捗が本市におけるまちづくりについても最重要課題の1つであり、この一日も早い進捗が望まれているところであります。

一方、環境こだわり県である滋賀県にあって、本市においても環境問題に対する市民の意識は非常に高く、水環境をはじめ、自然環境を守り育てることも重要な施策として必要不可欠であります。

本市を挟む「ふるさとの川整備事業」に認定された野洲川をはじめ草津川、市内を流れる葉山川、金勝川が市民の水に親しむ場となるために、四季にわたり水を湛え魚や水生植物に触れることで自然の大切さ環境保全の大切さを感じられる施設として生かされる必要があります。

また水を湛え水を活かすためには、その源泉である森林保全や、水田の保護のための農林業振興も必要不可欠であります。

衰退する林業後継者の育成や、ボランティアによる森林の整備等に対しても一定の負担が必要であり、自然の貯水機能、水質浄化機能、降雨時の調整機能を充実することが将来の河川づくり、水づくりを担うものと考えます。

直接的な河川整備による環境を重視した河川とのふれあい保全整備等と合わせ総合的観点からの政策の展開を望みます。

自治体	211	寝屋川市
-----	-----	------

淀川水系河川整備計画策定に伴う自治体の意見聴取について(回答)

淀川は今から約50年前は、堤防が決壊し洪水になり寝屋川市の低地部を浸水させていましたが、現在は先人の努力により堤防の決壊はなくなり治水の面では充実してまいりました。併せて、河川敷にはスポーツ施設等の広場や自然のままの形態を残存するスペースが配置されていますが、今後益々、淀川の在り方が重要になってまいります。そこで本市としての意見を下記のとおり回答させていただきます。

《意見》

自然環境の保全・再生について

淀川は、河川敷等の整備が随分進んでまいりました。しかしながら、その反面、ワンドが干上がり、天然記念物であるイタセンバラが絶滅の危機にあります。今一度、ヨシ原の保全等に力点をおいた、自然環境を顧みるときであると思います。

舟運の復活について

現在、道路はいたるところで渋滞しています。舟運が復活いたしますと、物流の円滑化と道路渋滞の緩和に寄与すると思います。また、観光利用等についても検討の余地があると考えます。(結果としてCO2の削減対策にもつながります)

防災について

本市としては、防災上河川敷を広域避難地に指定しています。今後は緊急時の避難者通路の確保(鳥飼仁和寺大橋部)と併せて現在堤防に設置してある階段部にスロープ等のバリアフリー対応が必要であります。

公園の再整備について

淀川の立地条件を生かした、例えばワンドの再生や水遊びが出来る浅瀬等、水に親しめる公園整備が必要であると考えます。そして、身障者も高齢者等すべての人が利用できるノーマライゼーションの公園再整備と併せて本市が占用許可を頂いている野球場・グラウンドの長期使用についても配慮いただきますよう、よろしく願い致します。

高規格堤防の推進について

現在、淀川沿川推進協議会で鋭意取り組んで頂いておりますが、堤防の強度アップと周辺まちづくりの観点からその推進を望むものです。

自治体	223	大山崎町
-----	-----	------

淀川水系河川整備計画について

淀川水辺やみどりの空間は、広域的なレクリエーションの機能、優れた自然環境の保全の機能、地域の景観形成の機能、防災の機能など、様々な役割を担っております。

淀川河川公園の一部として、当大山崎地区において、順次整備を進めて頂いておるところではありますが、小泉川により分断されている町営・国営河川公園の一体性を高め、魅力的及び利用しやすさの向上と、三川合流域を中心とした京都半環状都市ゾーンに位置する乙訓・八幡地域が有する地域資源を有機的、複層的に連携させることによる「乙訓・八幡 - 地域創造事業」の推進を図り、さらには京都府立洛西浄化センターにおける公園との一体的利用の整備、また一方では、淀川河川公園基本計画の改訂に向けて、京都府地域を当基本計画に位置付。

京都第二外環状道路事業に伴い、橋の背景となる自然環境の、歴史的風土の保全と一般道路、また、歩道からの三川合流部のアクセス整備。

防災と安全意識の観点から、災害時の交通手段としての水運の機能確保、防災ステーションの整備。

淀川スーパー堤防整備事業においては、大阪府島本町までとなっておりますが、当大山崎地区にもスーパー堤防整備事業の延伸計画の創設。

自治体	224	城陽市土木課
-----	-----	--------

淀川水系におけるこれからの川づくりについて

(城陽市域における環境河川整備の取り組みと住民意識の動向)

城陽市域西部を東西に流れる木津川とともに、城陽市をはじめ南山城地域の生活・文化・歴史を形成してきた。木津川に流入する1級河川青谷川や長谷川又宇治川に流入する1級河川古川に対する、昔のかかわり方を懐かしむ思いが、ここ近年、声として多く上がるようになり市の管理河川の整備にも大きく影響を与えている。

昭和30年代からの城陽市における急激な人口増・宅地化にともない市域の河川は治水を第一義として整備が行われてきた結果、水の汚れも相まって水に親しむことから遠ざかり、その欲求は交通機関を駆使し遠方の山河に求めることでしか満たされなくなった。しかし、身近の川で親水性をという気運は、市が今行っている準用河川今池川の整備に影響を与えることとなった。準用河川今池川は、延長2,700mで約70%がコンクリート護岸で改修済であるが残りの最上流である720mを河川法の改正もあり自然系土羽護岸の環境河川として整備することとなった。この自然系土羽護岸整備をすることにより幅広の用地が必要となったことから、地権者の同意や用地買収に伴う税金導入の増加などのハードルをクリアする必要があったが、想定していたよりスムーズに合意を得られた。これは、川に入りたい、水に親しみたいという市民や、議会の思いが治水効果優先、歳出抑制の流れを上まわったものと思われる。

また、1級河川古川において、水辺で遊べる古川をつくる会が「川は心のふるさとです。誰でも子供の頃、川辺で遊んだ思い出があるのではないのでしょうか。」をキャッチフレーズとして勝手連的に結成され、月に1回位少しづつゴミ掃除をしましょうと、先日第1回のゴミ掃除が行われた。下水道が50%に満たない整備率であり、水もきれいとは言えず、投棄されたゴミも山積している状況で参加された人に聞くと、汚いし、臭いし大変だったけど「何故か楽しい」と言う感想を言っておられた。この「何故か楽しい」が、これからの川づくりのキーワードではないかと考える。

木津川の河川敷に休みになると人が集まってくる情景を見ると、この空間に無限の可能性が潜んでいるように思える。

一般からの応募意見集

平成 14 年 1 月

平成14年2月改訂

淀川水系流域委員会 庶務

(株)三菱総合研究所 関西研究センター

〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2 近鉄堂島ビル7F

TEL:(06)6341-5983 FAX:(06)6341-5984

E-mail:k-kim@mri.co.jp

ホームページ:<http://www.yodoriver.org>